

イ 個別犯罪類型ごとの前科歴数

(ア) 殺傷犯関係（殺人・傷害・傷害致死）前科歴数

a 殺人前科歴数

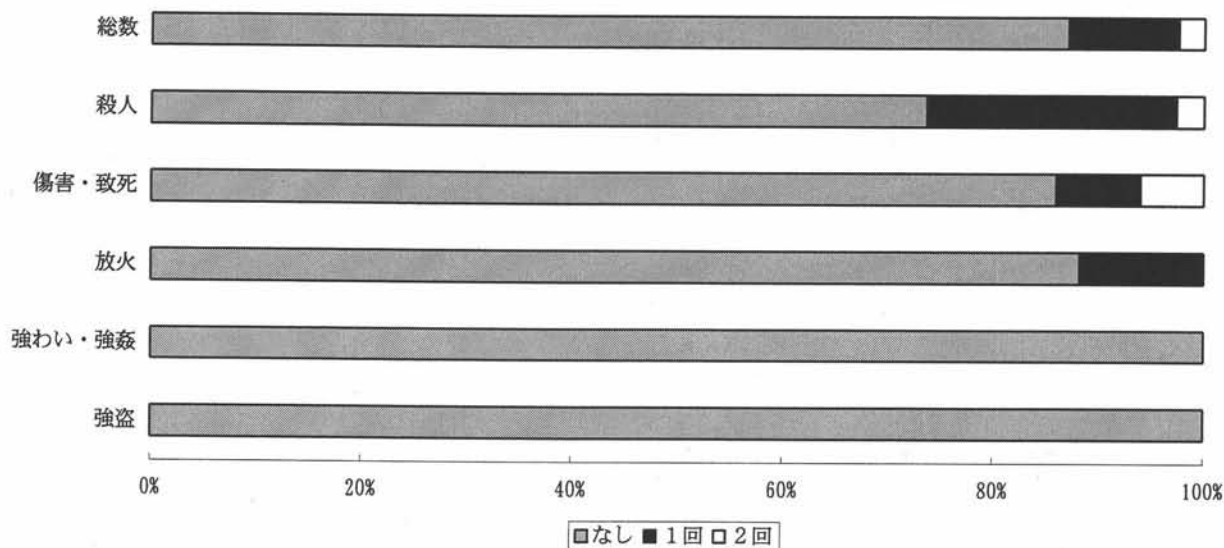
再犯者のうち殺人前科歴を有する者（殺人の非行歴のある者はいなかった。）の分布は表54、図57のとおりであり、殺人、傷害・致死、放火群には殺人前科歴保有者が10%前後ないしは25%程度おり、しかも、殺人前科歴を複数有する者が全体で4人、2.5%存在することが判明した^(注43)。

表54 犯罪群別殺人前科歴数

	総数	なし	1回	2回
総数	163	142	17	4
殺人	38	28	9	1
傷害・致死	50	43	4	3
放火	34	30	4	—
強わい・強姦	19	19	—	—
強盗	22	22	—	—

注 法務総合研究所の調査による。

図57 犯罪群別・殺人前科歴数数別構成比



注 法務総合研究所の調査による。

(注43) ちなみに、表54について χ^2 検定を行ったところ、殺人群の0回が有意に少なく、1回が有意に多いことが判明した（検定結果は巻末検定表3のとおり。）。

b 殺傷犯（殺人，傷害・致死）前科歴数

いわゆる殺傷犯である殺人，傷害・傷害致死の総前科歴数の分布は，表55・56，図58，平均値は図59のとおりである。

殺人群と傷害・致死群については，殺傷犯前科歴を有する者の割合が80％を超える高率であり，他の群より明らかに殺傷犯の前科歴数が多い傾向が見られ，複数回繰り返している者の割合も高い^(注44)。

再犯者中に，殺傷犯を繰り返す傾向のあるグループ（殺人，傷害・致死群）と殺傷犯をあまり犯さない傾向のあるグループ（上記以外の放火，強わい・強姦，強盗群）が併存しているのである。

表55 犯罪群別殺傷犯総前科歴数

	総数	なし	1回	2回	3－5回	6－10回	11回以上	平均
総数	163	46	48	26	30	12	1	1.9
殺人	38	6	9	8	11	3	1	2.6
傷害・致死	50	3	20	10	9	8	—	2.6
放火	34	9	14	5	5	1	—	1.4
強わい・強姦	19	16	1	—	2	—	—	0.4
強盗	22	12	4	3	3	—	—	0.9

注 法務総合研究所の調査による。

表56 犯罪群別殺傷犯総前科歴数（累積百分率）

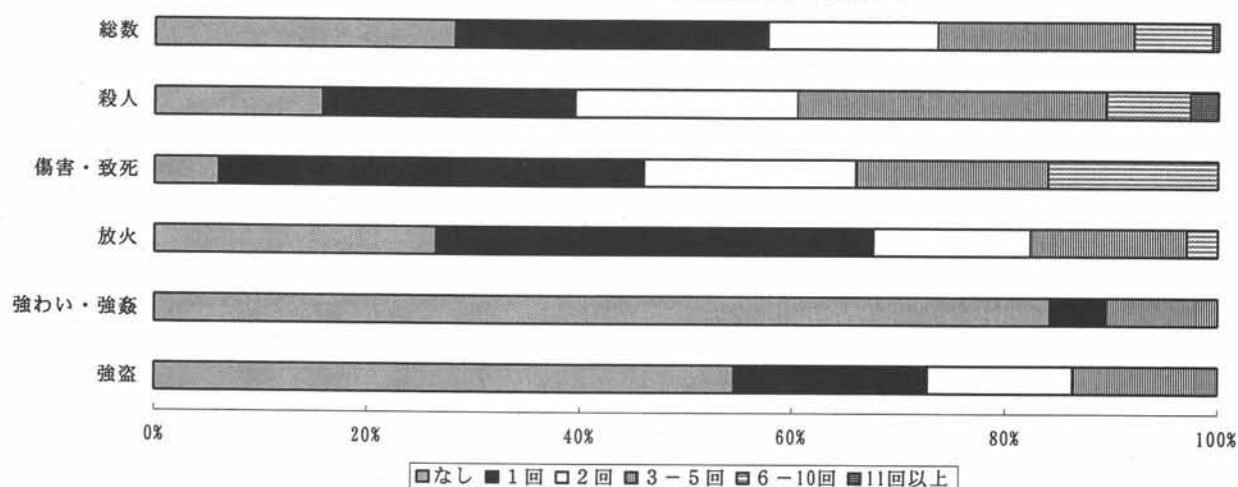
	総数	1回以上	2回以上	3回以上	6回以上	11回以上
総数	100.0	71.8	42.3	26.4	8.0	0.6
殺人	100.0	84.2	60.5	39.5	10.5	2.6
傷害・致死	100.0	94.0	54.0	34.0	16.0	—
放火	100.0	73.5	32.4	17.6	2.9	—
強わい・強姦	100.0	15.8	10.5	10.5	—	—
強盗	100.0	45.5	27.3	13.6	—	—

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 色をつけたセルは，各罪種群ごとの上位2項目を示す。

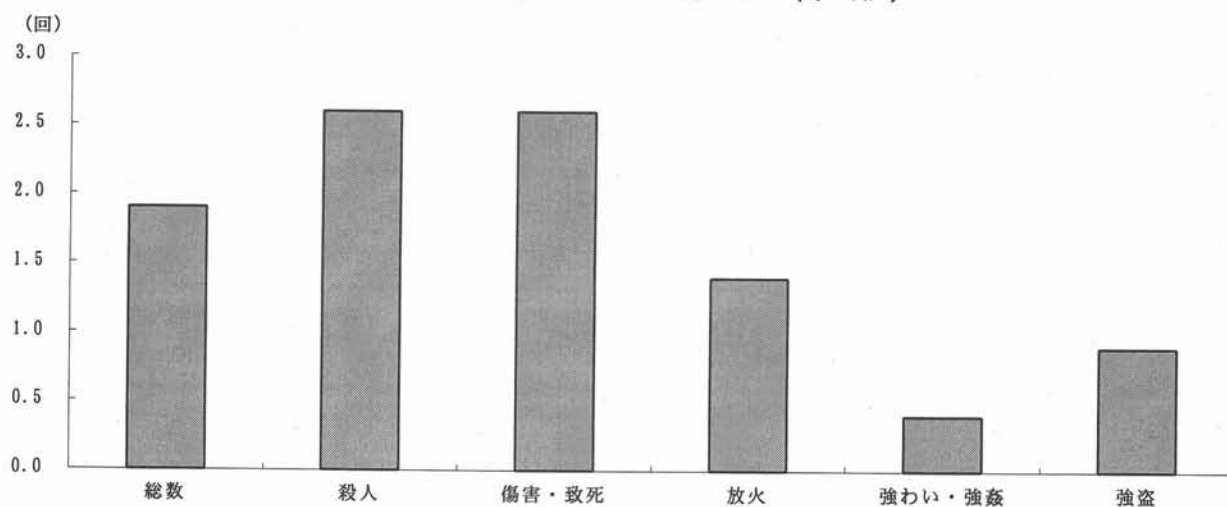
(注44) ちなみに，表55について， χ^2 検定を行ったところ，傷害・致死群の0回，強わい・強姦群の1回，2回が有意に少なく，傷害・致死群の1回，6～10回，強わい・強姦群の0回，強盗群の0回が有意に多いことが判明した（検定結果詳細は，巻末検定表4のとおり）。よって，特に，傷害・致死群で殺傷犯を繰り返す傾向が強く，強わい・強姦群に殺傷犯をしない傾向が強いことが色濃く現れていることが分かる。

図58 犯罪群別・殺傷犯総前科歴数別構成比



注 法務総合研究所の調査による。

図59 犯罪群別殺傷犯総前科歴数（平均値）



注 法務総合研究所の調査による。

c 殺傷犯前科数

殺傷犯前科数については、表57・58、図60、平均値については、図61のとおりである。

殺人、傷害・致死、放火群については、他の群に比して明らかに殺傷犯前科数が多く、殺傷犯前科を有する者の割合がいずれも50%を超えており、特に殺人、傷害・致死群は、全般的に殺傷犯前科数が多い。傷害・致死群で殺傷犯を繰り返す傾向が強く、強わい・強姦群に殺傷犯をしない傾向が強いことが色濃く現れていることが分かる^(注45)。

(注45) ちなみに、表57について、 χ^2 検定を行ったところ、傷害・致死群の0回、強わい・強姦群の1回が有意に少なく、傷害・致死群の1回、6～10回、放火群の1回、強わい・強姦群の0回、強盗群の0回が有意に多いことが判明した（検定結果詳細は、巻末検定表5のとおり。）。

表57 犯罪群別殺傷犯前科数

	総数	なし	1回	2回	3-5回	6-10回	平均
総数	163	76	40	19	20	8	1.3
殺人	38	17	5	6	7	3	1.7
傷害・致死	50	11	19	6	9	5	2.0
放火	34	13	14	4	3	—	1.0
強わい・強姦	19	17	—	1	1	—	0.3
強盗	22	18	2	2	—	—	0.3

注 法務総合研究所の調査による。

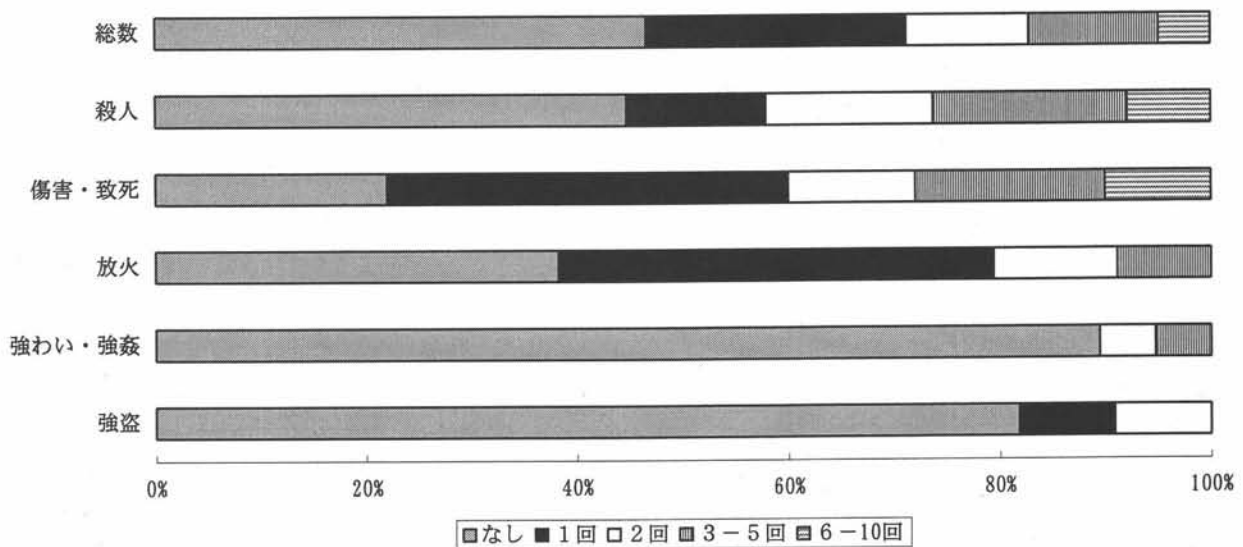
表58 犯罪群別殺傷犯前科数（累積百分率）

	総数	1回以上	2回以上	3回以上	6回以上
総数	100.0	53.4	28.8	17.2	4.9
殺人	100.0	55.3	42.1	26.3	7.9
傷害・致死	100.0	78.0	40.0	28.0	10.0
放火	100.0	61.8	20.6	8.8	—
強わい・強姦	100.0	10.5	10.5	5.3	—
強盗	100.0	18.2	9.1	—	—

注 1 法務総合研究所の調査による。

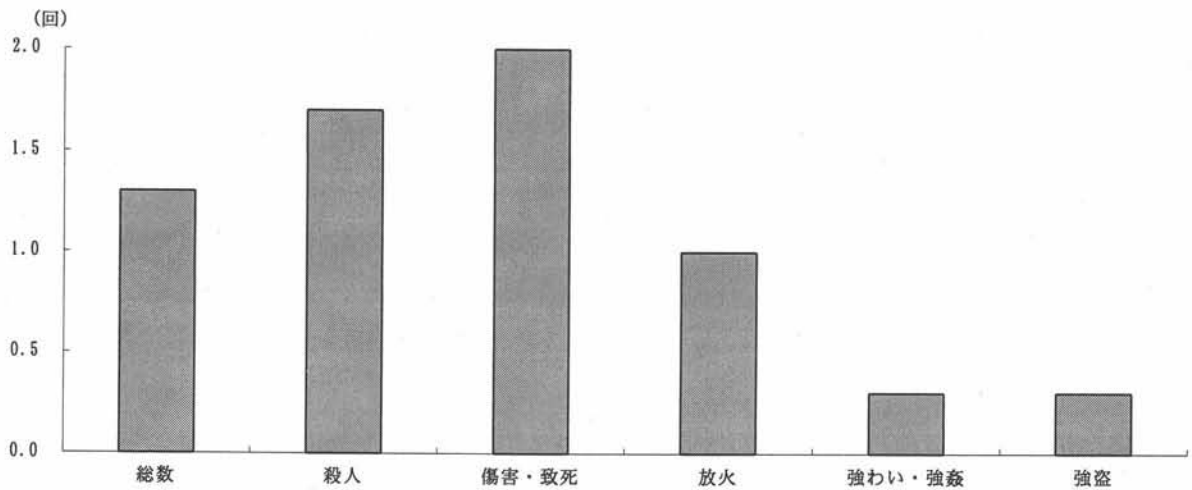
2 色をつけたセルは、各罪種群ごとの上位2項目を示す。

図60 犯罪群別・殺傷犯前科数別構成比



注 法務総合研究所の調査による。

図61 犯罪群別殺傷犯前科数（平均値）



注 法務総合研究所の調査による。

d 殺傷犯前歴数

殺傷犯前歴数は、表59・60、図62、平均値は図63のとおりである。殺傷犯前科数の場合ほど差はないものの、やはり、殺人、傷害・致死群での殺傷犯前歴を有する割合の高さが目を引く。

表59 犯罪群別殺傷犯前歴数

	総数	なし	1回	2回	3－5回	平均
総数	163	106	41	10	6	0.5
殺人	38	19	12	5	2	0.7
傷害・致死	50	27	18	3	2	0.6
放火	34	26	5	2	1	0.4
強わい・強姦	19	18	1	－	－	0.1
強盗	22	16	5	－	1	0.4

注 法務総合研究所の調査による。

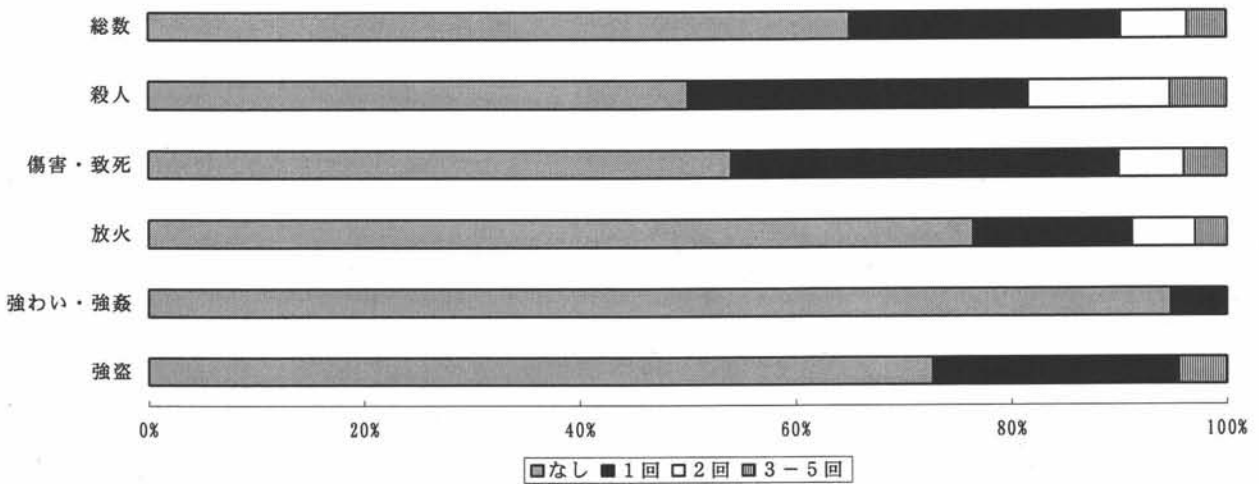
表60 犯罪群別殺傷犯前歴数（累積百分率）

	総数	1回以上	2回以上	3回以上
総数	100.0	35.0	9.8	3.7
殺人	100.0	50.0	18.4	5.3
傷害・致死	100.0	46.0	10.0	4.0
放火	100.0	23.5	8.8	2.9
強わい・強姦	100.0	5.3	－	－
強盗	100.0	27.3	4.5	4.5

注 1 法務総合研究所の調査による。

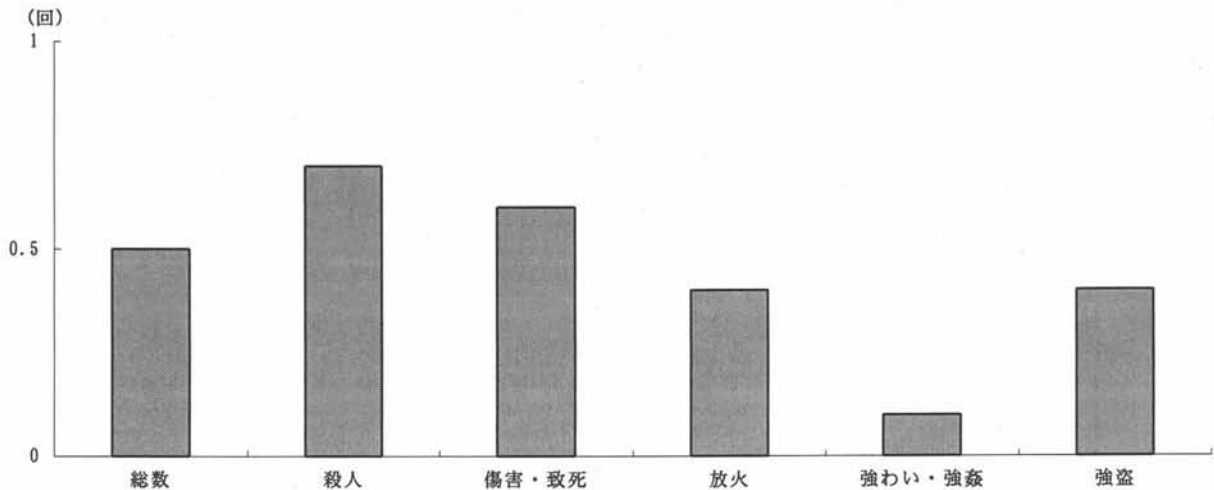
2 色をつけたセルは、各罪種群ごとの上位2項目を示す。

図62 犯罪群別・殺傷犯前歴数別構成比



注 法務総合研究所の調査による。

図63 犯罪群別殺傷犯前歴数 (平均値)



注 法務総合研究所の調査による。

e 殺傷犯非行歴数

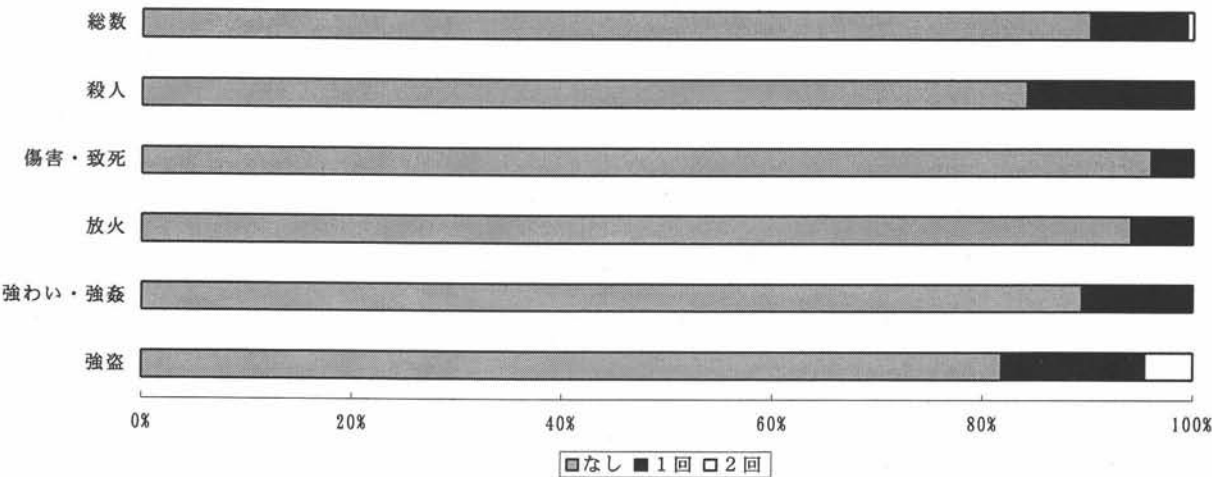
殺傷犯非行歴数については、表61、図64のとおりであり、非行歴を有する者の割合は低く、かつ、群ごとの際だった特徴もない。

表61 犯罪群別殺傷犯非行歴数

	総数	なし	1回	2回
総数	163	147	15	1
殺人	38	32	6	—
傷害・致死	50	48	2	—
放火	34	32	2	—
強わい・強姦	19	17	2	—
強盗	22	18	3	1

注 法務総合研究所の調査による。

図64 犯罪群別殺傷犯非行歴数



注 法務総合研究所の調査による。

f 10年内殺傷犯前科歴総数（非行歴を含む。）

10年内殺傷犯前科歴数については表62・63，図65，平均値は図66のとおりである。

殺人群については10年内に殺傷犯前科歴のある者が75%を超え，傷害・致死群に至っては94%に達している。また，これら2つのグループについては，全般的に殺傷犯前科歴の多さが目立つ。

また，傷害・致死群で殺傷犯を繰り返す傾向が強く，強わい・強姦群，強盗群に殺傷犯をしない傾向が強いことが顕著に現れている(注46)。

表62 犯罪群別10年内殺傷犯前科歴総数

	総数	なし	1回	2回	3－5回	6－10回	平均
総数	163	51	79	21	10	2	1.0
殺人	38	8	21	6	2	1	1.2
傷害・致死	50	3	34	8	5	—	1.3
放火	34	11	17	3	2	1	1.1
強わい・強姦	19	16	1	2	—	—	0.3
強盗	22	13	6	2	1	—	0.6

注 法務総合研究所の調査による。

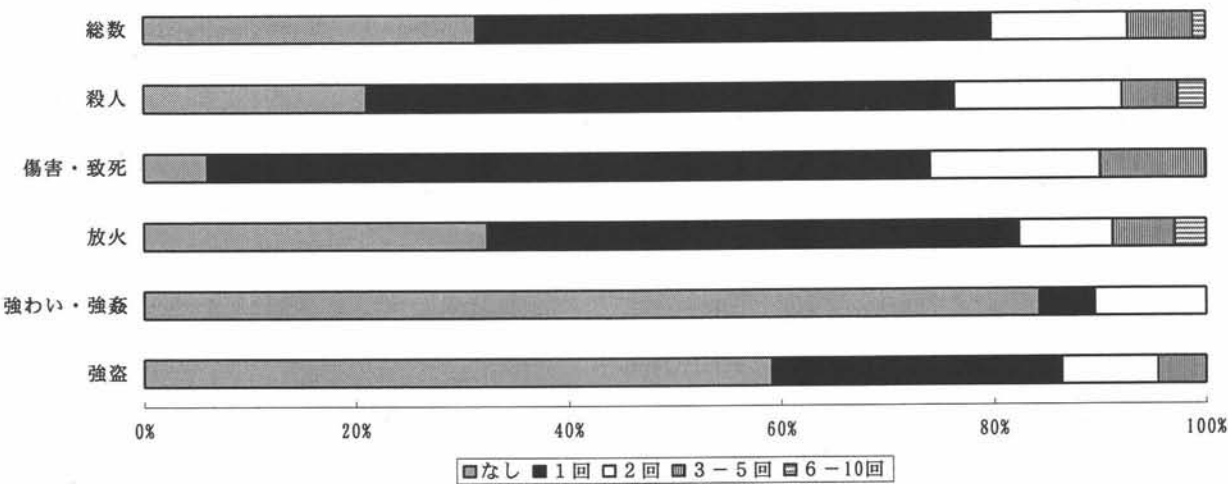
(注46) なみに，表62について， χ^2 検定を行ったところ，傷害・致死群の0回，強わい・強姦群の1回，強盗の1回が有意に少なく，傷害・致死群の1回，強わい・強姦群の0回，強盗群の0回が有意に多いことが判明した（検定結果詳細は，巻末検定表6のとおり。）。

表63 犯罪群別10年内殺傷犯前歴総数（累積百分率）

	総数	1回以上	2回以上	3回以上	6回以上
総数	100.0	68.7	20.2	7.4	1.2
殺人	100.0	78.9	23.7	7.9	2.6
傷害・致死	100.0	94.0	26.0	10.0	—
放火	100.0	67.6	17.6	8.8	2.9
強わい・強姦	100.0	15.8	10.5	—	—
強盗	100.0	40.9	13.6	4.5	—

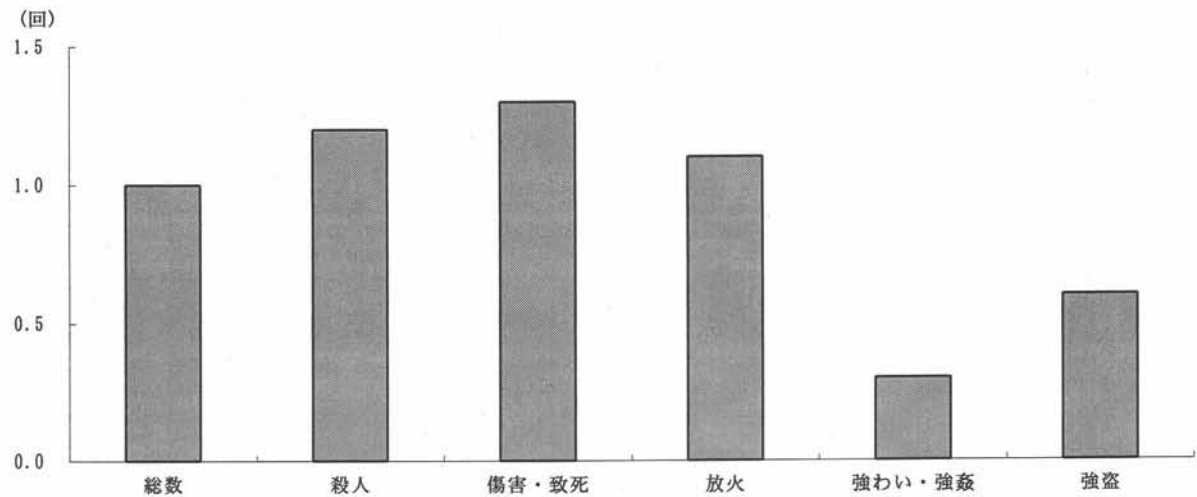
注 1 法務総合研究所の調査による。
2 色をつけたセルは、各罪種群ごとの上位2項目を示す。

図65 犯罪群別・10年内殺傷犯総前科歴数別構成比



注 法務総合研究所の調査による。

図66 犯罪群別10年内殺傷犯前科歴数（平均値）



注 法務総合研究所の調査による。

g 10年内殺傷犯前科数

10年内殺傷犯前科数の分布は、表64・65、図67、平均値は図68のとおりである。

傷害・致死、放火群において、10年内の殺傷犯前科を有している者の割合が50%を超えており、特に傷害・致死群は70%を占めている。傷害・致死群で殺傷犯を繰り返す傾向が強く、強わい・強姦群、強盗群に殺傷犯をしない傾向が強いことが現れている^(注47)。

表64 犯罪群別10年内殺傷犯前科数

	総数	なし	1回	2回	3－5回	平均
総数	163	87	54	16	6	0.7
殺人	38	21	11	6	—	0.6
傷害・致死	50	15	27	4	4	0.9
放火	34	15	15	2	2	0.8
強わい・強姦	19	17	—	2	—	0.2
強盗	22	19	1	2	—	0.2

注 法務総合研究所の調査による。

表65 犯罪群別10年内殺傷犯前科数（累積百分率）

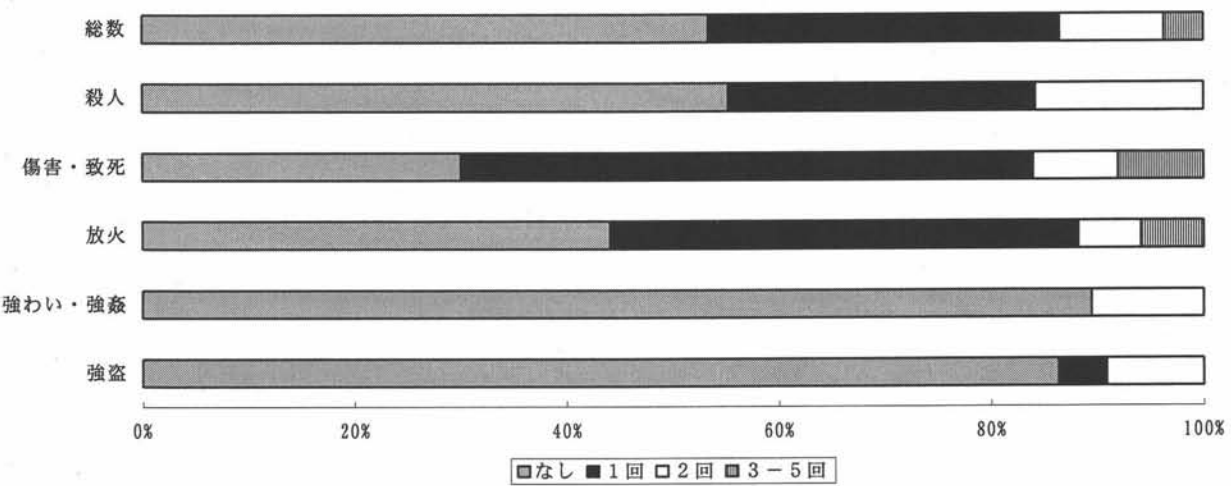
	総数	1回以上	2回以上	3回以上
総数	100.0	46.6	13.5	3.7
殺人	100.0	44.7	15.8	0.0
傷害・致死	100.0	70.0	16.0	8.0
放火	100.0	55.9	11.8	5.9
強わい・強姦	100.0	11.8	10.5	0.0
強盗	100.0	13.6	9.1	0.0

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 色をつけたセルは、各罪種群ごとの上位2項目を示す。

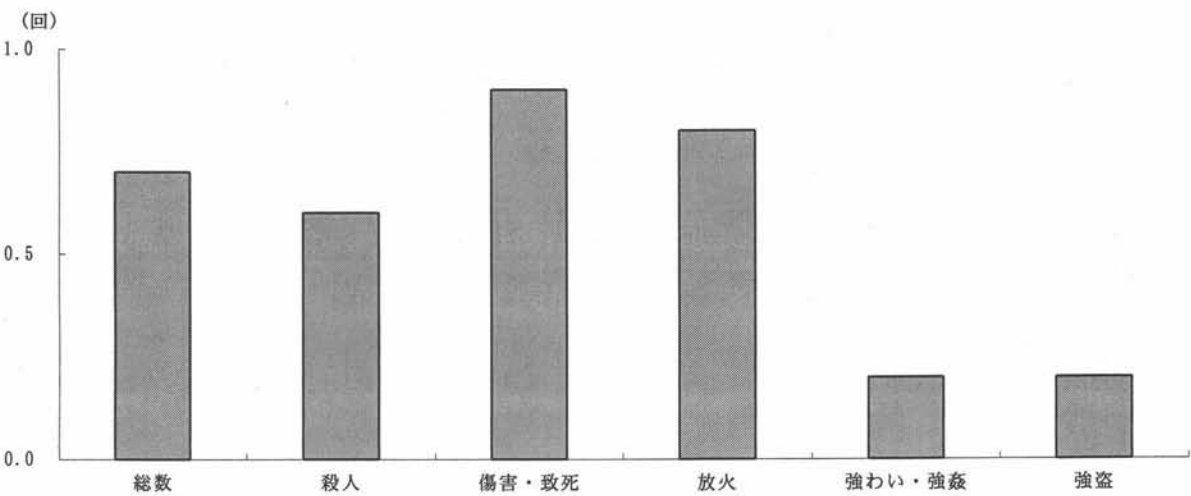
(注47) ちなみに、表64について、 χ^2 検定を行ったところ、傷害・致死群の0回、強わい・強姦群の1回、強盗の1回が有意に少なく、傷害・致死群の1回、強わい・強姦群の0回、強盗群の0回が有意に多いことが判明した（検定結果詳細は、巻末検定表7のとおり。）。

図67 犯罪群別・10年内殺傷犯前科数別構成比



注 法務総合研究所の調査による。

図68 犯罪群別10年内殺傷犯前科数（平均値）



注 法務総合研究所の調査による。

h 10年内殺傷犯前歴数

10年内殺傷犯前科歴数の分布は、表66・67，図69，平均値は，図70のとおりである。
殺人，傷害・致死群において殺傷犯前科歴を有する割合が高い。

表66 犯罪群別10年内殺傷犯前歴数

	総数	なし	1回	2回	3－5回	平均
総数	163	107	41	10	5	0.4
殺人	38	19	12	5	2	0.6
傷害・致死	50	27	18	3	2	0.4
放火	34	27	5	2	—	0.3
強わい・強姦	19	18	1	—	—	0.1
強盗	22	16	5	—	1	0.4

注 法務総合研究所の調査による。

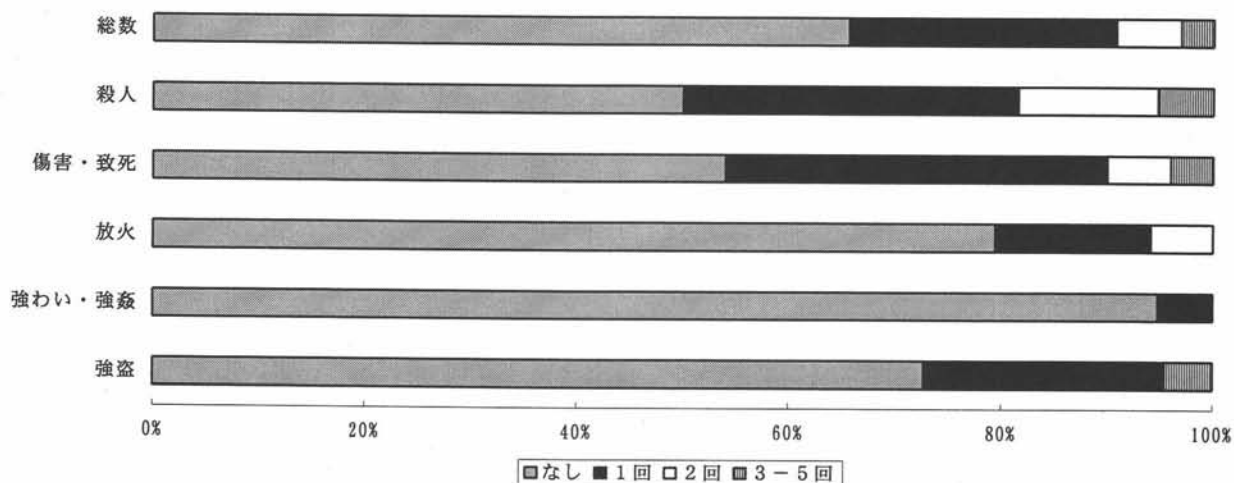
表67 犯罪群別10年内殺傷犯前歴数（累積百分率）

	総数	1回以上	2回以上	3回以上
総 数	100.0	35.0	9.8	3.7
殺 人	100.0	50.0	18.4	5.3
傷 害・致死	100.0	46.0	10.0	4.0
放 火	100.0	23.5	8.8	2.9
強わい・強姦	100.0	5.3	0.0	0.0
強 盗	100.0	27.3	4.5	4.5

注 1 法務総合研究所の調査による。

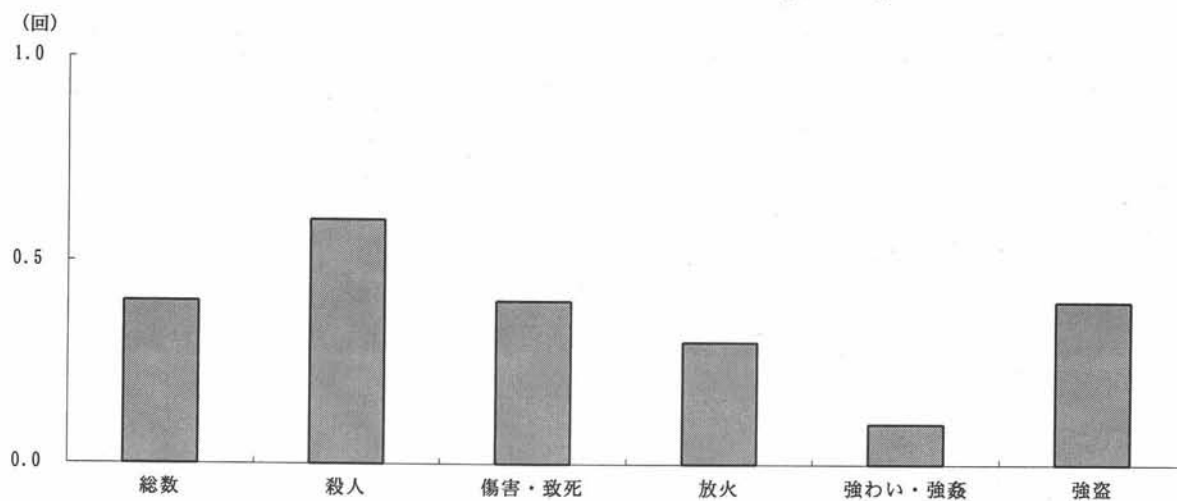
2 色をつけたセルは、各罪種群ごとの上位2項目を示す。

図69 犯罪群別・10年内殺傷犯前歴数別構成比



注 法務総合研究所の調査による。

図70 犯罪群別10年内殺傷犯前歴数（平均値）



注 法務総合研究所の調査による。

(イ) 粗暴犯（暴行，脅迫，器物損壊，逮捕監禁，暴力行為等ノ処罰ニ関スル法律違反の罪）関係

a 粗暴犯前科歴総数

粗暴犯（暴行，脅迫，器物損壊，逮捕監禁，暴力行為等ノ処罰ニ関スル法律違反の罪）前科歴数の分布は表68・69，図71，平均値は図72のとおりである。

殺人，傷害・致死群の粗暴犯前科歴を有する者の割合は50%から70%弱と高く，殺傷犯群では，粗暴犯を行う傾向も強いことが分かる。

表68 犯罪群別粗暴犯前科歴数

	総数	なし	1回	2回	3－5回	6－10回	平均
総数	163	83	39	21	15	5	1.1
殺人	38	19	7	3	6	3	1.6
傷害・致死	50	16	18	9	6	1	1.3
放火	34	19	7	5	2	1	0.9
強わい・強姦	19	14	2	2	1	—	0.5
強盗	22	15	5	2	—	—	0.4

注 法務総合研究所の調査による。

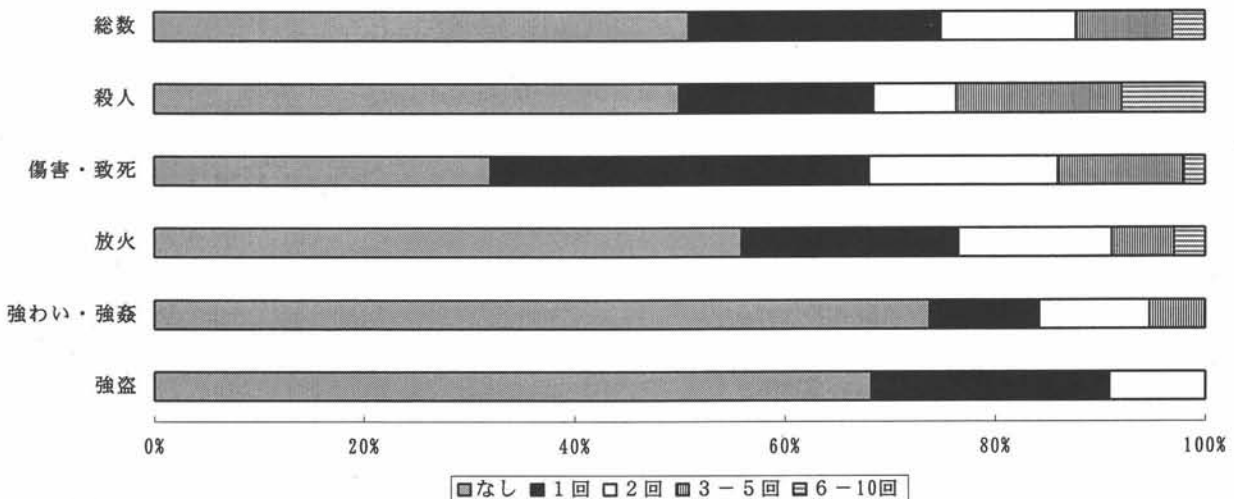
表69 犯罪群別粗暴犯前科歴数（累積百分率）

	総数	1回以上	2回以上	3回以上	6回以上
総数	100.0	49.1	25.2	12.3	3.1
殺人	100.0	50.0	31.6	23.7	7.9
傷害・致死	100.0	68.0	32.0	14.0	2.0
放火	100.0	44.1	23.5	8.8	2.9
強わい・強姦	100.0	26.3	15.8	5.3	—
強盗	100.0	31.8	9.1	—	—

注 1 法務総合研究所の調査による。

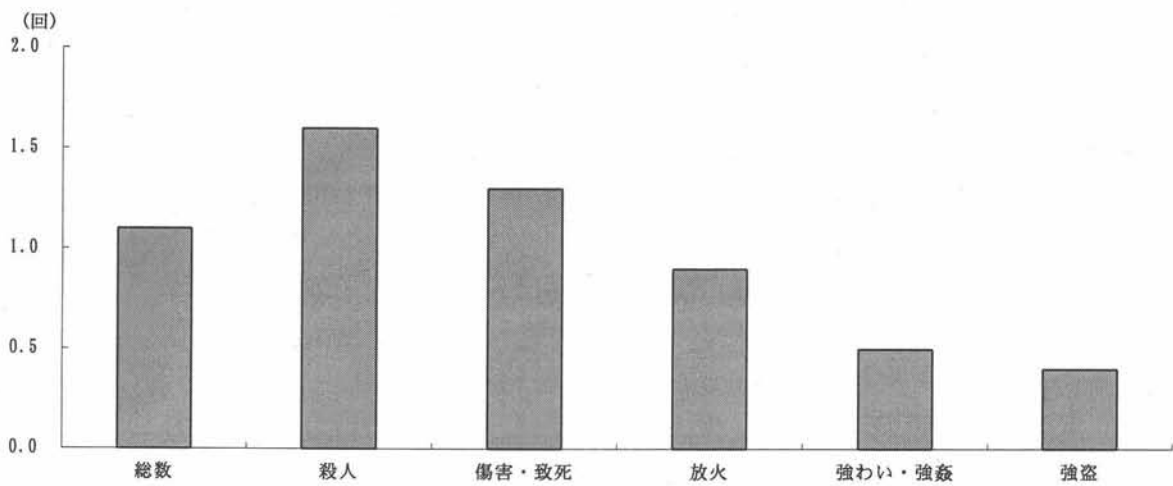
2 色をつけたセルは，各罪種群ごとの上位2項目を示す。

図71 犯罪群別粗暴犯前科歴数



注 法務総合研究所の調査による。

図72 犯罪群別粗暴犯前科歴数（平均値）



注 法務総合研究所の調査による。

b 10年内粗暴犯前科歴数

10年内粗暴犯前科歴数は、表70・71、図73、平均値は図74のとおりである。
殺人、傷害・致死、放火群において10年内粗暴前科歴を有する者の比率が40％前後と高い。

表70 犯罪群別10年内粗暴犯前科歴数

	総数	なし	1回	2回	3－5回	平均
総数	163	110	42	6	5	0.5
殺人	38	24	8	2	4	0.6
傷害・致死	50	30	16	3	1	0.5
放火	34	22	11	1	—	0.4
強わい・強姦	19	16	3	—	—	0.2
強盗	22	18	4	—	—	0.2

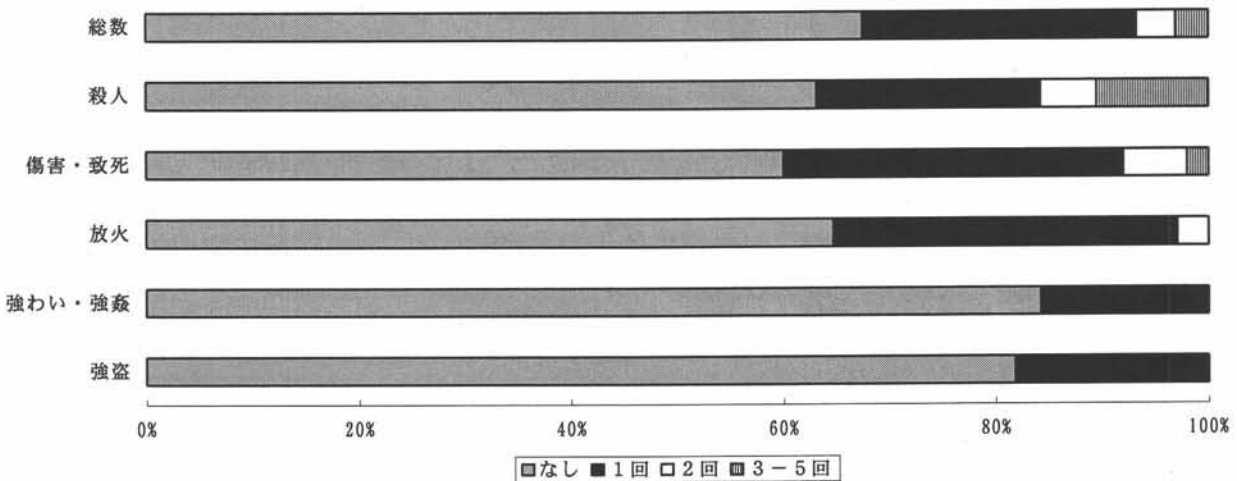
注 法務総合研究所の調査による。

表71 犯罪群別10年内粗暴犯前科歴数（累積百分率）

	総数	1回以上	2回以上	3回以上
総数	100.0	32.5	6.7	3.1
殺人	100.0	36.8	15.8	10.5
傷害・致死	100.0	40.0	8.0	2.0
放火	100.0	35.3	2.9	—
強わい・強姦	100.0	15.8	—	—
強盗	100.0	18.2	—	—

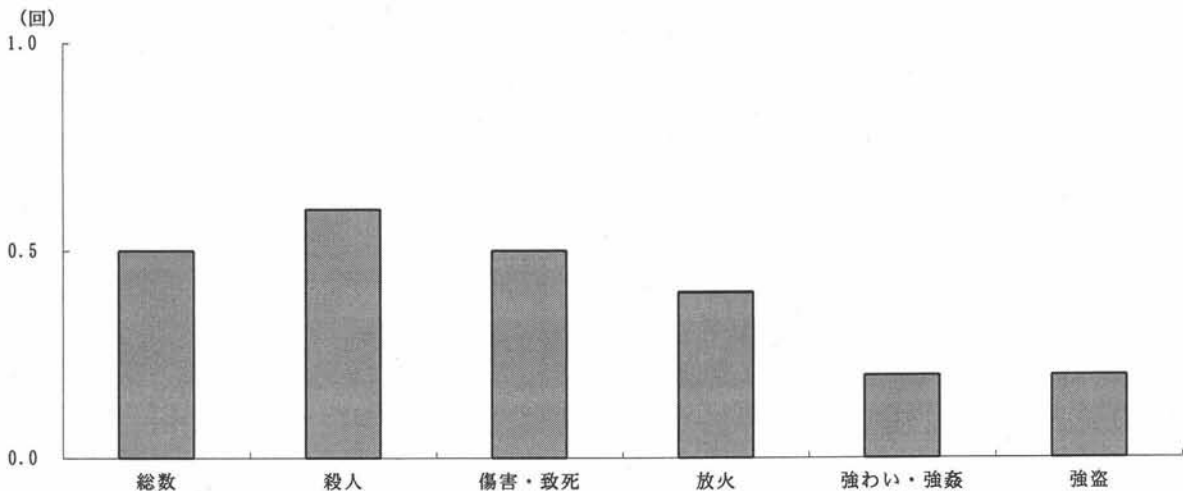
注 1 法務総合研究所の調査による。
2 色をつけたセルは、各罪種群ごとの上位2項目を示す。

図73 犯罪群別・10年内粗暴犯前科歴数別構成比



注 法務総合研究所の調査による。

図74 犯罪群別10年内粗暴犯前科歴数（平均値）



注 法務総合研究所の調査による。

(ウ) 銃砲刀剣類所持等取締法違反（以下、銃刀法違反という。）関係

銃刀法違反の罪は、殺傷犯や粗暴犯等の予備罪的性格を有するので、その前科歴数分布を見てみたところ、表72・73、図75、平均値は図76のとおりで、やはり、殺人、傷害・致死群で前科歴保有者率は30%を超え、刃物等の凶器を携行あるいは使用する傾向がうかがえる^(注48)。また、他の群に比して刃物等の凶器を多数回携行して検挙されている者が多い傾向が現れている^(注49)。

(注48) 罪名として銃刀法違反が前科調書や前歴票にあらわれている場合を全て集計しているので、銃刀法違反のみで検挙されている場合のみならず、殺人の際に凶器を携行して犯行に及んだ場合も含んでいる。

(注49) ちなみに、表72について、 χ^2 検定を行ったところ、殺人群の3-5回が有意に多いことが判明した(検定結果詳細は巻末の検定表8のとおり)。

表72 犯罪群別銃刀法違反前科歴数

	総数	なし	1回	2回	3－5回	6－10回	平均
総数	162	126	22	10	4	1	0.4
殺人	38	25	5	4	4	—	0.7
傷害・致死	50	34	10	5	—	1	0.5
放火	34	30	4	—	—	—	0.1
強わい・強姦	19	18	1	—	—	—	0.1
強盗	22	19	2	1	—	—	0.2

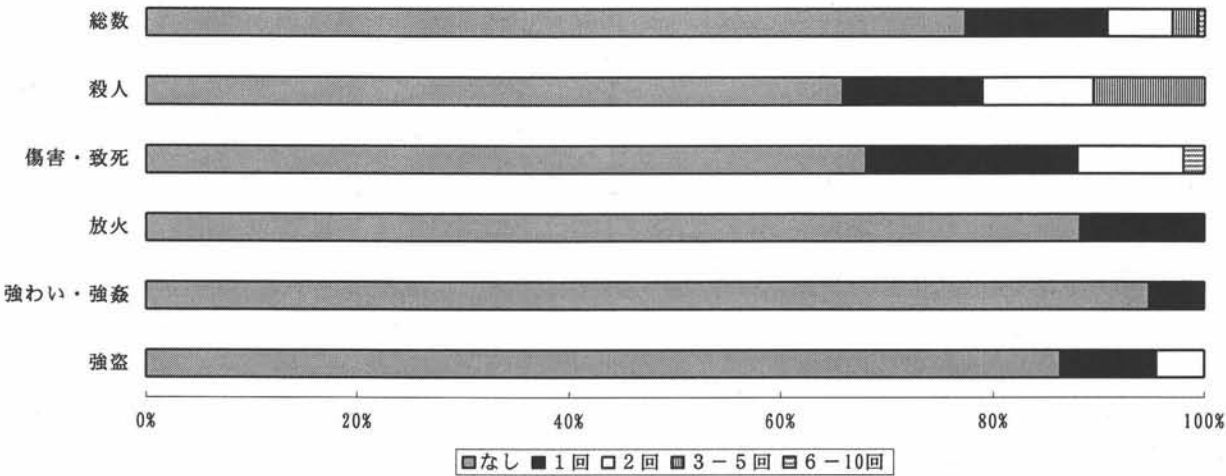
注 1 法務総合研究所の調査による。
2 不明を除く。

表73 犯罪群別銃刀法違反前科歴数（累積百分率）

	総数	1回以上	2回以上	3回以上	6回以上
総数	100.0	22.7	9.2	3.1	0.6
殺人	100.0	34.2	21.1	10.5	—
傷害・致死	100.0	32.0	12.0	2.0	2.0
放火	100.0	11.8	—	—	—
強わい・強姦	100.0	5.3	—	—	—
強盗	100.0	13.6	4.5	—	—

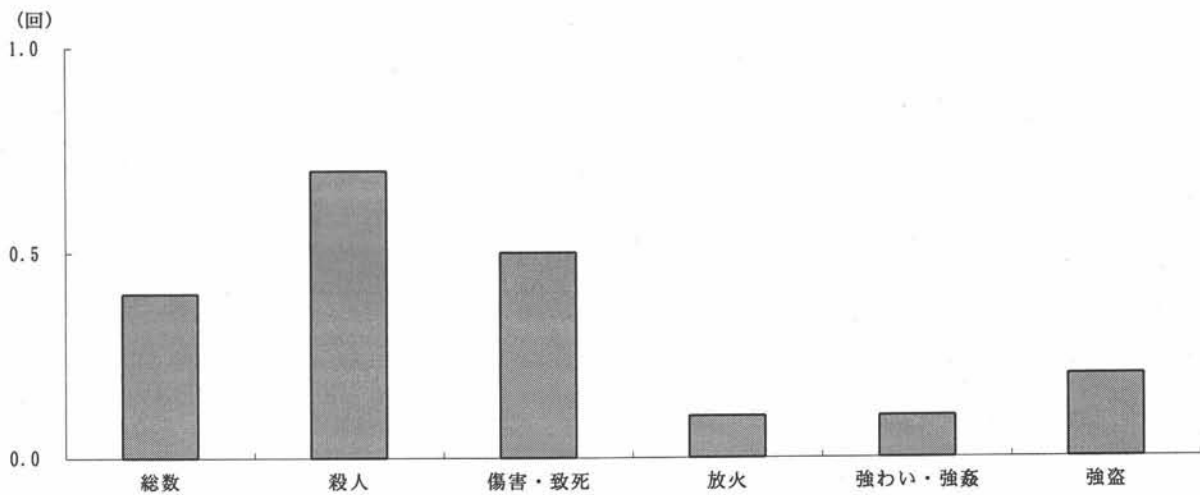
注 1 法務総合研究所の調査による。
2 色をつけたセルは、各罪種群ごとの上位2項目を示す。

図75 犯罪群別・銃刀法違反前科歴数別構成比



注 法務総合研究所の調査による。

図76 犯罪群別銃刀法違反前科歴数（平均値）



注 法務総合研究所の調査による。

(エ) 放火関係

a 放火前科歴数

放火前科歴数の分布は、表74・75、図77、平均値は図78のとおりであり、放火群の放火前科歴保有者率は40%を超え、他の群と異なる傾向があることが明らかである。他の群に比して放火群では、放火の前科歴のある者が多く、放火前科歴を繰り返すグループが存在することが明らかである^(注50)。

表74 犯罪群別放火前科歴数

	総数	なし	1回	2回	3－5回	平均
総数	163	134	21	6	2	0.3
殺人	38	30	6	2	—	0.3
傷害・致死	50	46	3	1	—	0.1
放火	34	20	9	3	2	0.7
強わい・強姦	19	18	1	—	—	0.1
強盗	22	20	2	—	—	0.1

注 法務総合研究所の調査による。

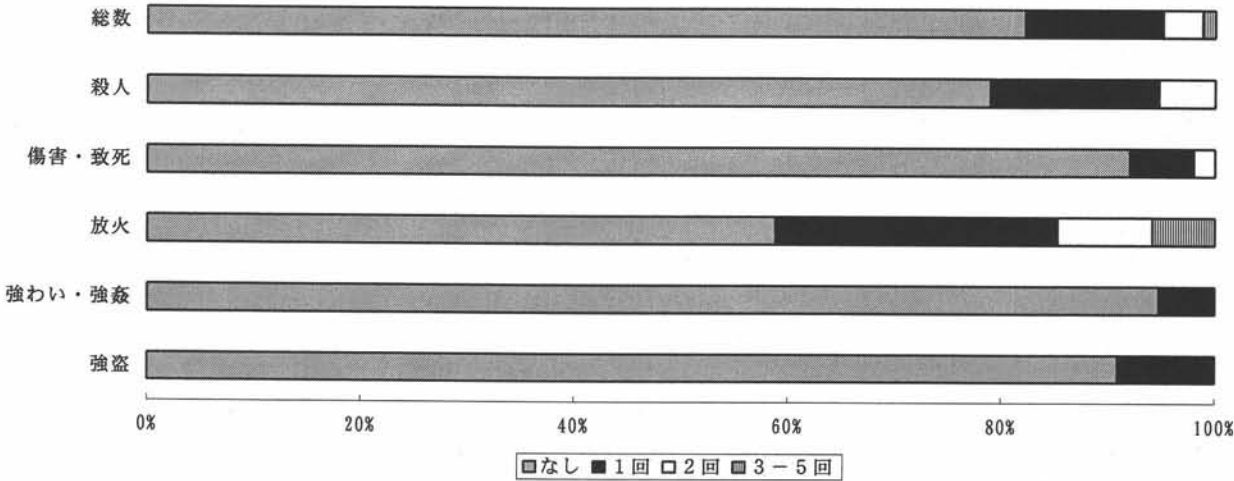
(注50) ちなみに、表74について、 χ^2 検定を行ったところ、傷害・致死群の0回、放火群の1回、3－5回が有意に多く、放火群の0回が有意に少なかったことが判明した（検定結果詳細は巻末の検定表9のとおり。）。

表75 犯罪群別放火前科歴数 累積百分率

	総数	1 回以上	2 回以上	3 回以上
総 数	100.0	17.8	4.9	1.2
殺 人	100.0	21.1	5.3	—
傷 害・致死	100.0	8.0	2.0	—
放 火	100.0	41.2	14.7	5.9
強わい・強姦	100.0	5.3	—	—
強 盗	100.0	9.1	—	—

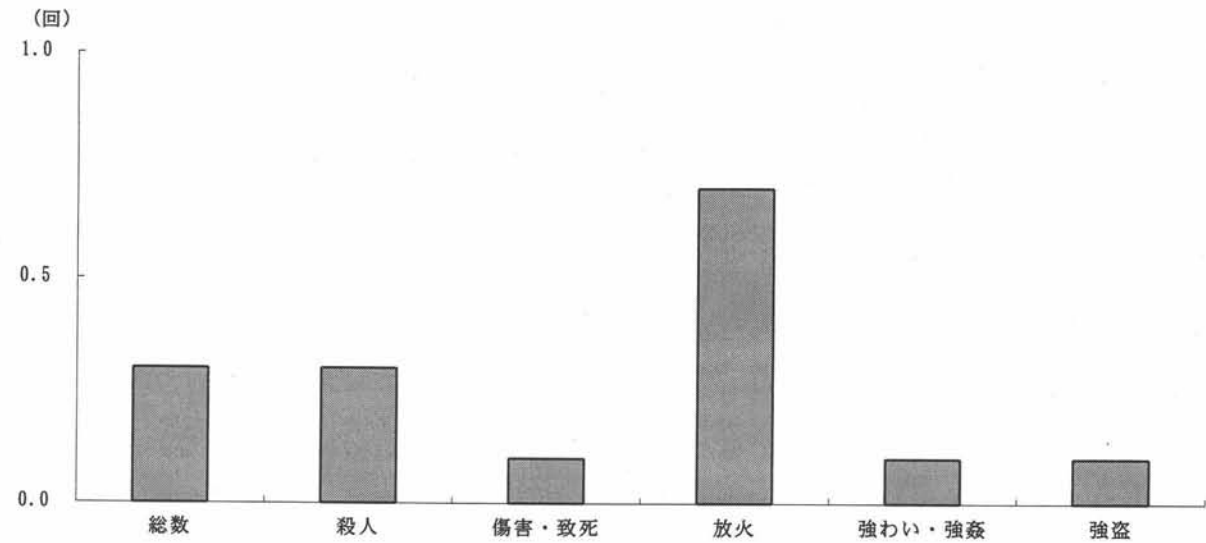
注 1 法務総合研究所の調査による。
2 色をつけたセルは、各罪種群ごとの上位 2 項目を示す。

図77 犯罪群別放火前科歴数別構成比



注 法務総合研究所の調査による。

図78 犯罪群別放火前科歴数（平均値）



注 法務総合研究所の調査による。

b 10年内放火前科歴数

10年内放火前科歴数についても、表76・77、図79・80のとおり、放火群のみが前科歴保有者の割合が高く、40%を超えている^(注51)。

表76 犯罪群別10年内放火前科歴数

	総数	なし	1回	2回	平均
総数	163	136	21	6	0.2
殺人	38	30	6	2	0.3
傷害・致死	50	47	2	1	0.1
放火	34	20	11	3	0.5
強わい・強姦	19	18	1	—	0.1
強盗	22	21	1	—	0.1

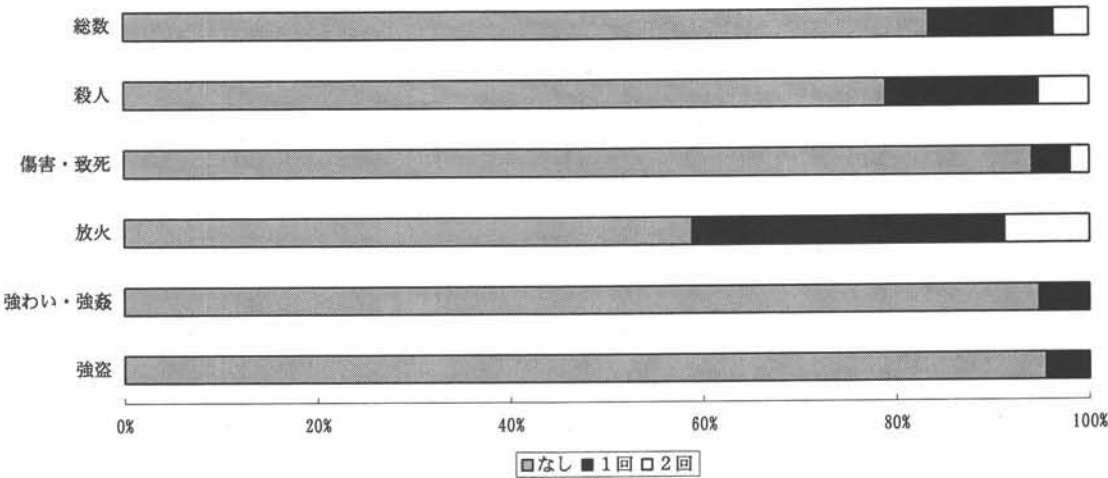
注 法務総合研究所の調査による。

表77 犯罪群別10年内放火前科歴数（累積百分率）

	総数	1回以上	2回以上
総数	100.0	16.6	3.7
殺人	100.0	21.1	5.3
傷害・致死	100.0	6.0	2.0
放火	100.0	41.2	8.8
強わい・強姦	100.0	5.3	—
強盗	100.0	4.5	—

注 1 法務総合研究所の調査による。
2 色をつけたセルは、各罪種群ごとの上位2項目を示す。

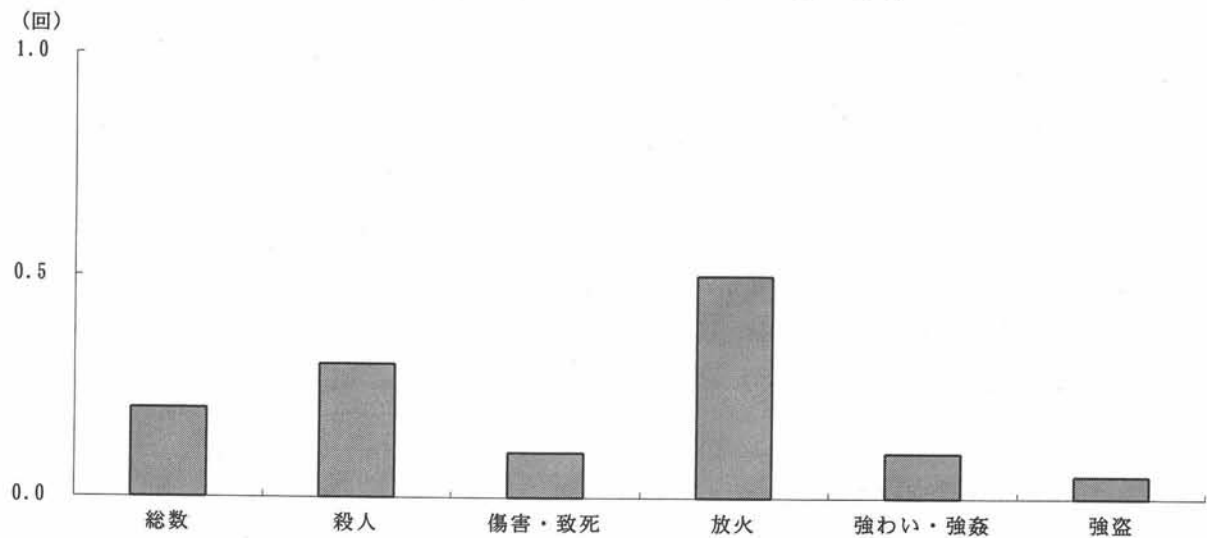
図79 犯罪群別・10年内放火前科歴数別構成比



注 法務総合研究所の調査による。

(注51) ちなみに、表76について、 χ^2 検定を行ったところ、傷害・致死群の0回、放火群の1回が有意に多く、傷害・致死群の1回、放火群の0回が有意に少なかったことが判明した（検定結果詳細は巻末の検定表10のとおり。）。

図80 犯罪群別10年内放火前科歴数（平均値）



注 法務総合研究所の調査による。

(オ) 強わい・強姦関係
a 強わい・強姦前科歴数

強わい・強姦前科歴数の分布は、表78・79、図81、平均値は82のとおりである。強わい・強姦群での前科歴保有者率が群を抜いており、80％を超えている。強わい・強姦群の同種犯罪への極めて強い親和性、(反復) 累行傾向が現れている。また、殺人群と強わい・強姦群の再犯者の犯罪傾向が明らかに異なることが分かる(註52)。

表78 犯罪群別強わい・強姦前科歴数

	総数	なし	1 回	2 回	3－5 回	6－10回	平均
総 数	163	133	21	5	3	1	0.3
殺 人	38	37	1	－	－	－	0.0
傷 害・致 死	50	45	5	－	－	－	0.1
放 火	34	28	6	－	－	－	0.2
強わい・強姦	19	3	7	5	3	1	1.9
強 盗	22	20	2	－	－	－	0.1

注 法務総合研究所の調査による。

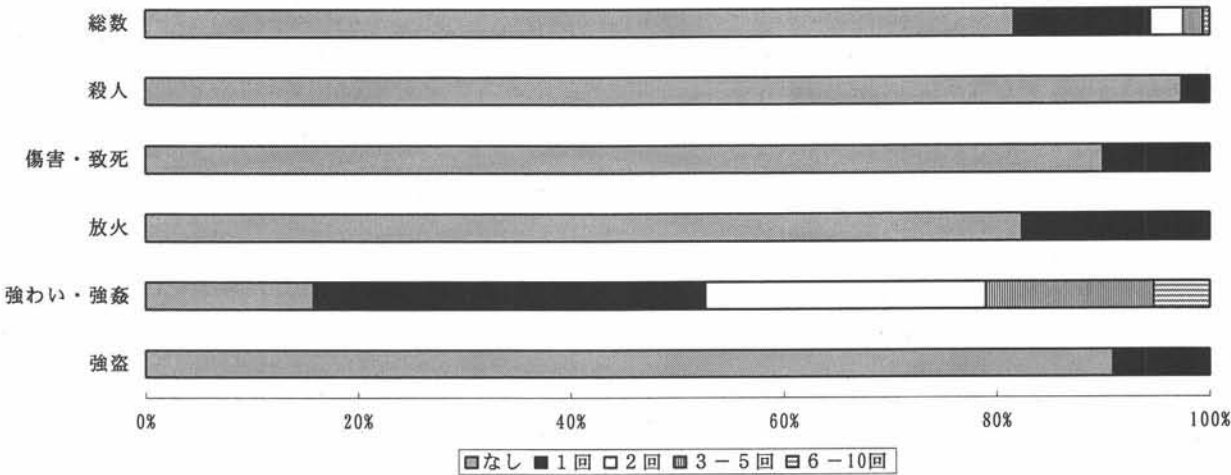
(注52) ちなみに、表78について、 χ^2 検定を行ったところ、殺人群の0回、強わい・強姦群の1回、2回、3－5回、11回以上が有意に多く、殺人群の1回、強わい・強姦群の0回が有意に少なかったことが判明した(検定結果詳細は巻末の検定表11のとおり)。

表79 犯罪群別強わい・強姦前科歴数 累積百分率

	総数	1回以上	2回以上	3回以上	6回以上
総数	100.0	18.4	5.5	2.5	0.6
殺人	100.0	2.6	—	—	—
傷害・致死	100.0	10.0	—	—	—
放火	100.0	17.6	—	—	—
強わい・強姦	100.0	84.2	47.4	21.1	5.3
強盗	100.0	9.1	—	—	—

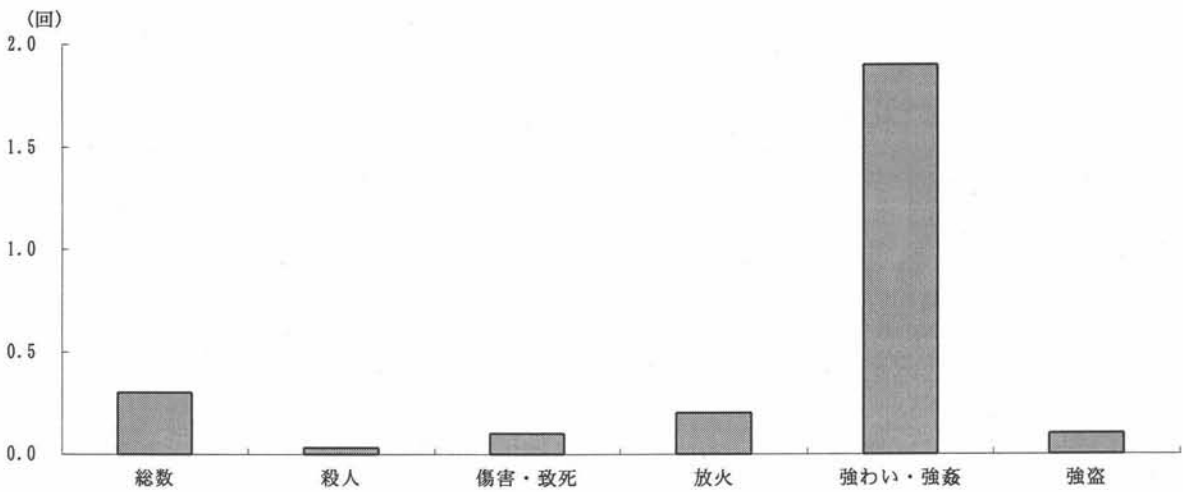
注 1 法務総合研究所の調査による。
2 色をつけたセルは、各罪種群ごとの上位2項目を示す。

図81 犯罪群別・強わい・強姦前科歴数別構成比



注 法務総合研究所の調査による。

図82 犯罪群別強わい・強姦前科歴数 平均値



注 法務総合研究所の調査による。

b 10年内強わい・強姦前科歴数

10年内強わい・強姦前科歴数の分布は、表80・81、図83・84のとおりである。やはり、強わい・強姦群の強わい・強姦前科歴保有率は群を抜いており80%近い^(注53)。

表80 犯罪群別10年内強わい・強姦前科歴数

	総数	なし	1回	2回	3－5回	平均
総数	163	142	14	3	4	0.2
殺人	38	38	－	－	－	－
傷害・致死	50	47	3	－	－	0.1
放火	34	33	1	－	－	0.0
強わい・強姦	19	4	8	3	4	1.4
強盗	22	20	2	－	－	0.1

注 法務総合研究所の調査による。

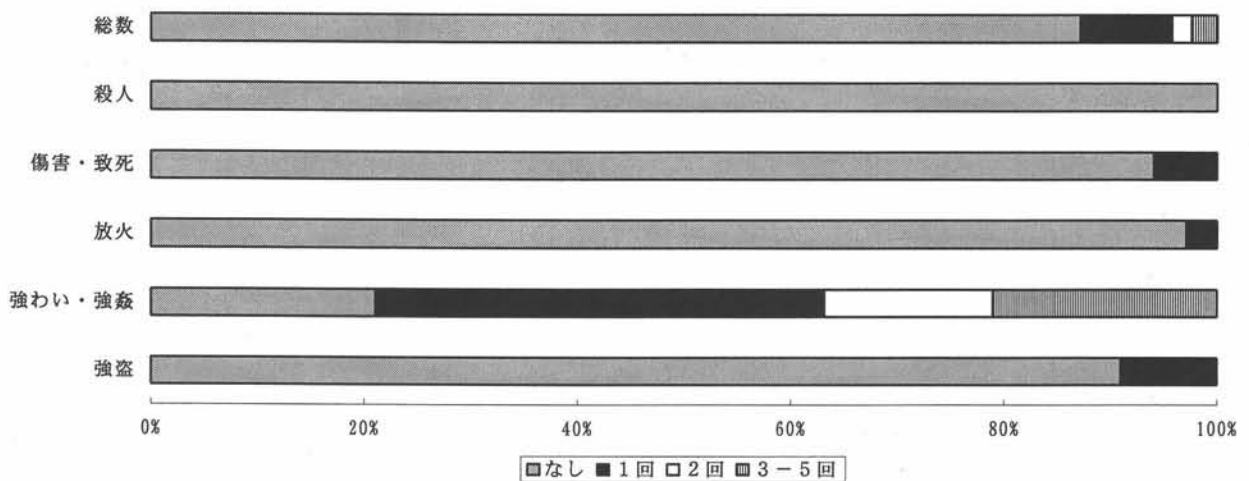
表81 犯罪群別10年内強わい・強姦前科歴数 累積百分率

	総数	1回以上	2回以上	3回以上
総数	100.0	12.9	4.3	2.5
殺人	100.0	－	－	－
傷害・致死	100.0	6.0	－	－
放火	100.0	2.9	－	－
強わい・強姦	100.0	78.9	36.8	21.1
強盗	100.0	9.1	－	－

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 色をつけたセルは、各罪種群ごとの上位2項目を示す。

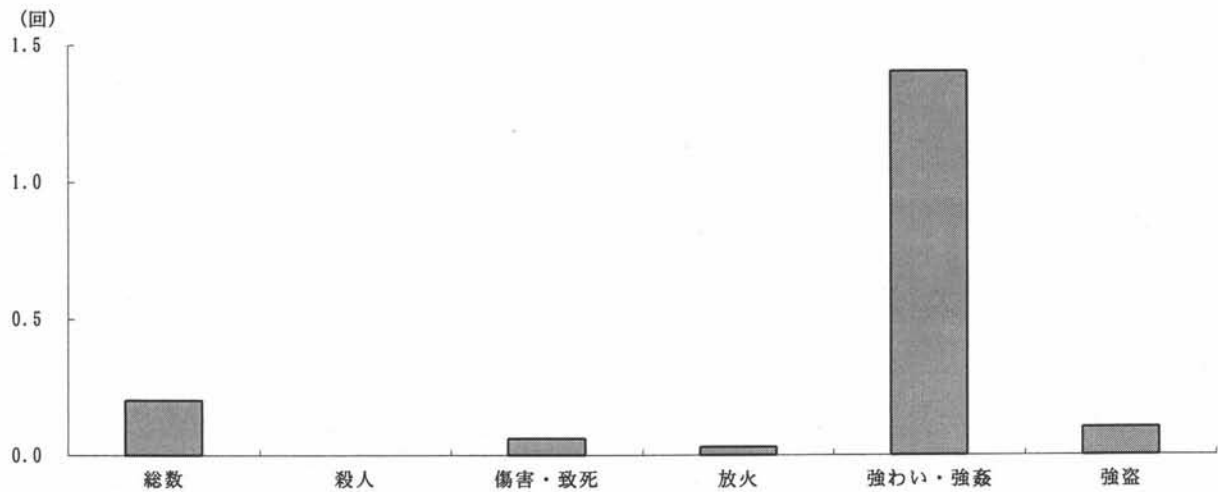
図83 犯罪群別・10年内強わい・強姦前科歴数別構成比



注 法務総合研究所の調査による。

(注53) 表80について、 χ^2 検定を行ったところ、殺人群の0回、強わい・強姦群の1回、2回、3－5回が有意に多く、殺人群の1回、強わい・強姦群の0回が有意に少なかったことが判明した（検定結果詳細は巻末の検定表12のとおり。）。

図84 犯罪群別10年内強わい・強姦前科歴数 平均値



注 法務総合研究所の調査による。

(カ) 強盗関係
a 強盗前科歴

強盗前科歴数についての分布は、表82・83、図85、平均値は図86のとおり。強盗群で強盗前科歴数が50%を超える高率になっているのが目立つ。強盗もまた放火、強わい・強姦等と同じように同種犯罪を繰り返すグループが存在することが分かる^(注54)。

表82 犯罪群別強盗前科歴数

	総数	なし	1 回	2 回	3－5 回	平均
総 数	163	131	29	2	1	0.2
殺 人	38	34	4	－	－	0.1
傷 害・致死	50	43	7	－	－	0.1
放 火	34	28	6	－	－	0.2
強わい・強姦	19	17	2	－	－	0.1
強 盗	22	9	10	2	1	0.8

注 法務総合研究所の調査による。

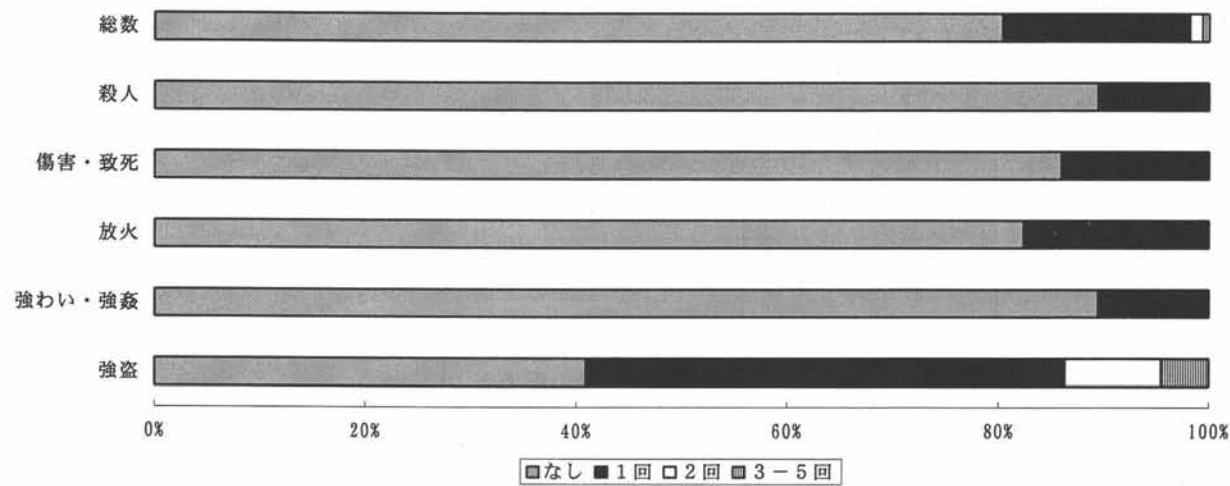
(注54) 表82について、 χ^2 検定を行ったところ、強盗群の1回、2回、3－5回が有意に多く、同群の0回が有意に少なかったことが判明した（検定結果詳細は巻末の検定表13のとおり。）。

表83 犯罪群別強盗前科歴数（累積百分率）

	総数	1回以上	2回以上	3回以上
総数	100.0	19.6	1.8	0.6
殺人	100.0	10.5	—	—
傷害・致死	100.0	14.0	—	—
放火	100.0	17.6	—	—
強わい・強姦	100.0	10.5	—	—
強盗	100.0	59.1	13.6	4.5

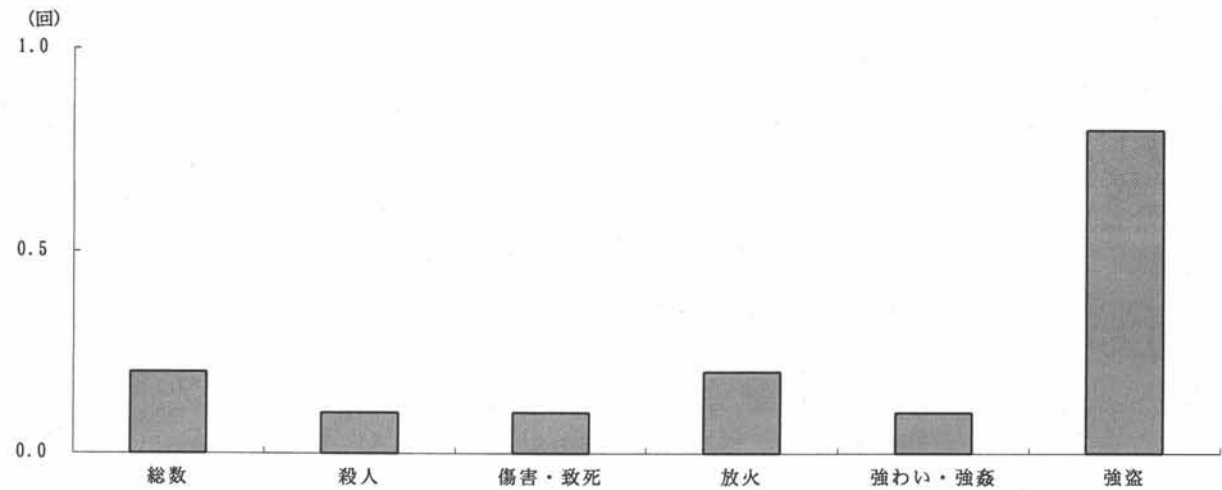
注 1 法務総合研究所の調査による。
2 色をつけたセルは、各罪種群ごとの上位2項目を示す。

図85 犯罪群別・強盗前歴数別構成比



注 法務総合研究所の調査による。

図86 犯罪群別強盗前科歴数（平均値）



注 法務総合研究所の調査による。

b 10年内強盗前科歴数

10年内強盗前科歴数は、表84・85、図87、平均値は図88のとおりである。強盗群に、強盗前科歴を有する者が多く、60%近くを占めている^(注55)。

表84 犯罪群別10年内強盗前科歴数

	総数	なし	1回	2回	平均
総数	163	141	19	3	0.2
殺人	38	35	3	—	0.1
傷害・致死	50	47	3	—	0.1
放火	34	31	2	1	0.1
強わい・強姦	19	19	—	—	—
強盗	22	9	11	2	0.7

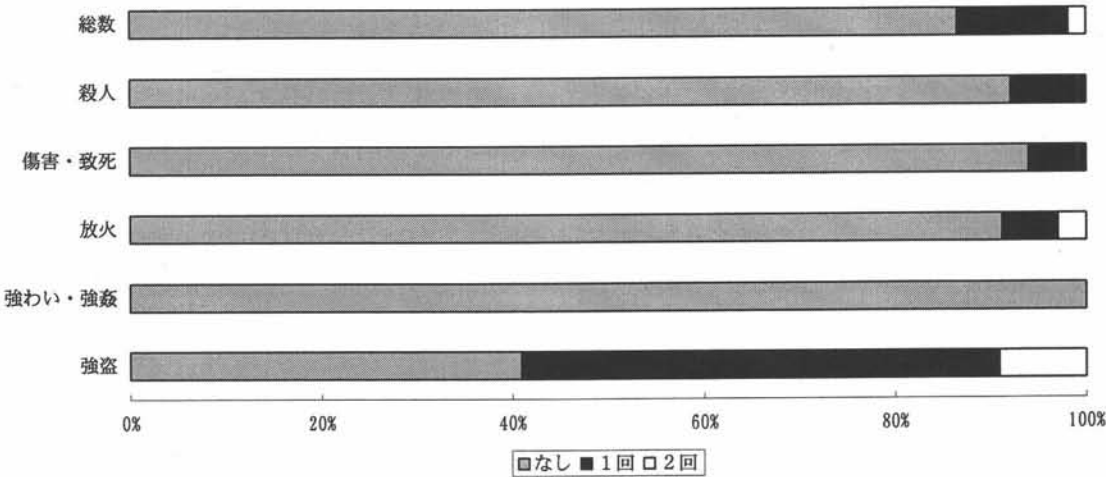
注 法務総合研究所の調査による。

表85 犯罪群別10年内強盗前科歴数（累積百分率）

	総数	1回以上	2回以上
総数	100.0	13.5	1.8
殺人	100.0	7.9	—
傷害・致死	100.0	6.0	—
放火	100.0	8.8	2.9
強わい・強姦	100.0	—	—
強盗	100.0	59.1	9.1

注 1 法務総合研究所の調査による。
2 色をつけたセルは、各罪種群ごとの上位2項目を示す。

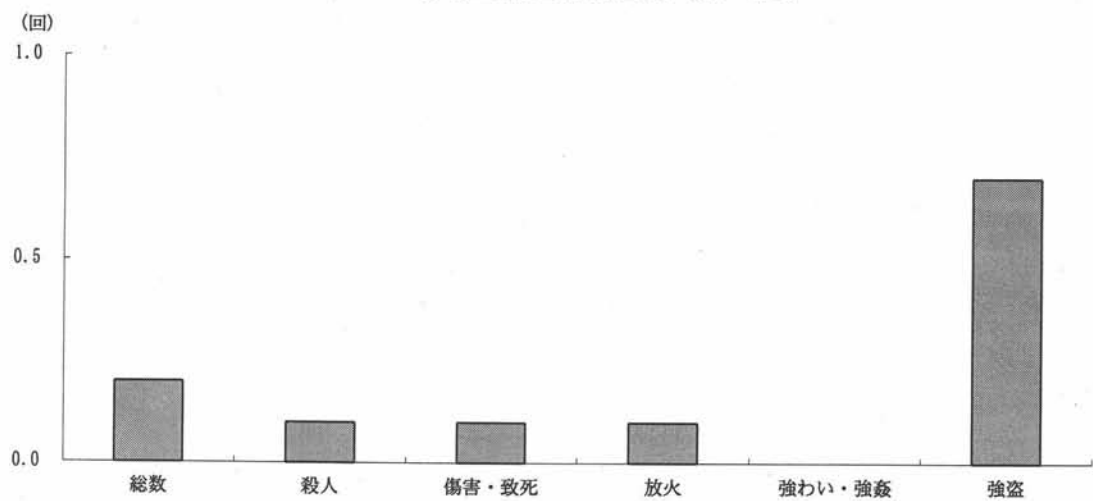
図87 犯罪群別・強盗前科歴数別構成比



注 法務総合研究所の調査による。

(注55) 表84について、 χ^2 検定を行ったところ、強盗群の1回、2回が有意に多く、同群の0回が有意に少なかったことが判明した（検定結果詳細は巻末の検定表14のとおり。）。

図88 犯罪群別強盗前科歴数（平均値）



注 法務総合研究所の調査による。

(キ) 財産犯前科歴数

a 財産犯前科歴数

強盗以外の財産犯（恐喝，詐欺，窃盗）の前科歴数の場合についても，分布を見たところ，表86・87，図89，平均値は図90のとおりであった。

どの群でも50％以上に前科歴があり，殺人，傷害・致死群が強盗群よりも前科歴数が平均して多い傾向にある（強わい・強姦群の平均値が，異常に高いのは，賽銭泥棒を各地で行った窃盗前科歴54回を数える常習犯が1人存在するためであり，これを除外すると，強わい・強姦群の平均は1.3，全体の平均は1.9となるのであって，強わい・強姦群の平均値は，他の群に比して低いというのが実態に即している。）。強盗群が必ずしも財産犯一般に対して強い親和性があるわけではないようである。

表86 犯罪群別財産犯前科歴数

	総数	なし	1 回	2 回	3－5 回	6－10回	11回以上	平均
総 数	163	74	30	14	29	12	4	2.2
殺 人	38	19	4	—	12	2	1	2.3
傷 害・致死	50	19	12	5	5	8	1	2.2
放 火	34	17	6	4	5	1	1	1.5
強わい・強姦	19	9	4	1	4	—	1	4.1
強 盗	22	10	4	4	3	1	—	1.4

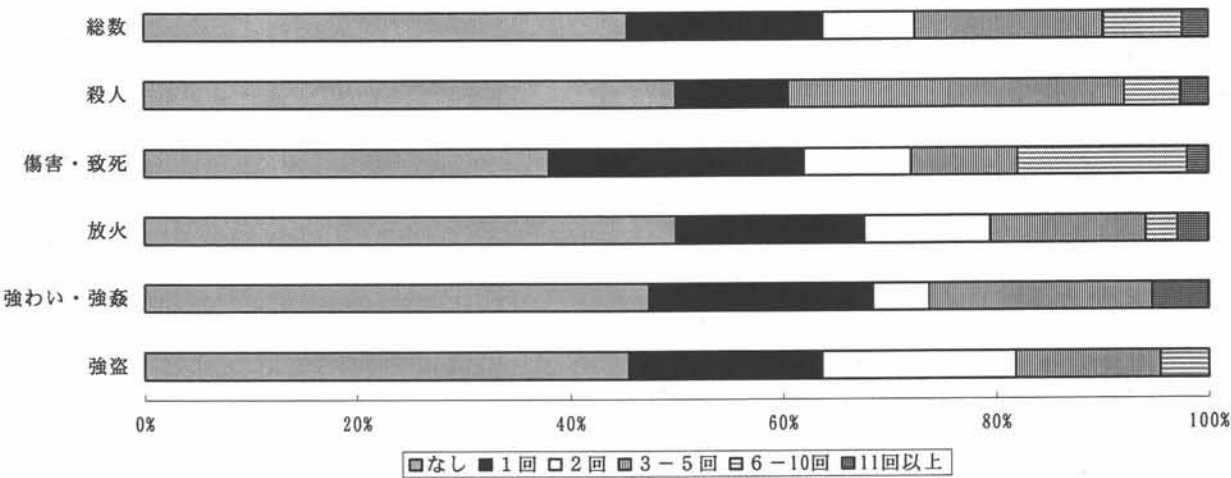
注 法務総合研究所の調査による。

表87 犯罪群別財産犯前科歴数（累積百分率）

	総数	1 回以上	2 回以上	3 回以上	6 回以上	11回以上
総 数	100.0	54.6	36.2	27.6	9.8	2.5
殺 人	100.0	50.0	39.5	39.5	7.9	2.6
傷 害・致死	100.0	62.0	38.0	28.0	18.0	2.0
放 火	100.0	50.0	32.4	20.6	5.9	2.9
強わい・強姦	100.0	52.6	31.6	26.3	5.3	5.3
強 盗	100.0	54.5	36.4	18.2	4.5	—

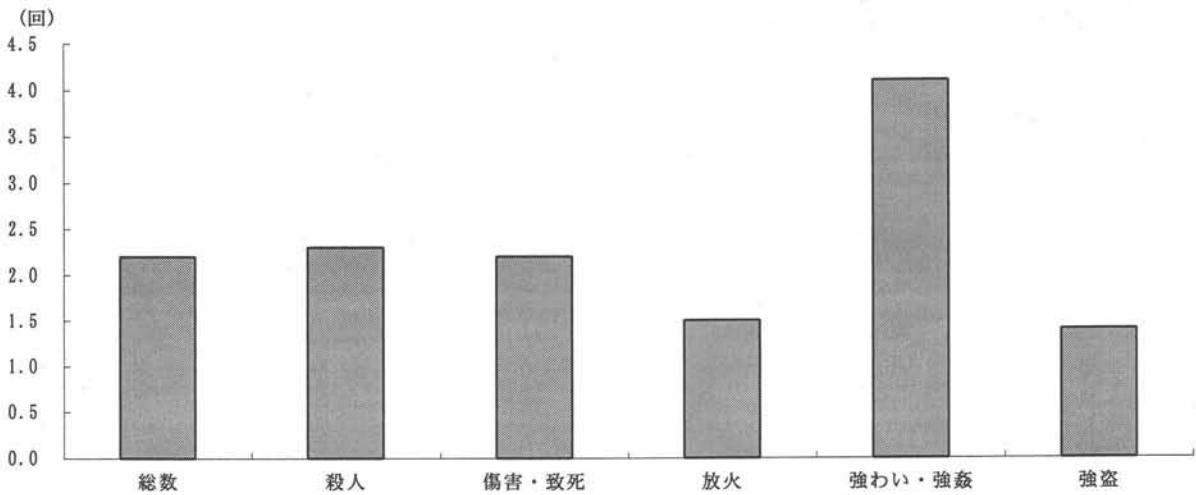
注 1 法務総合研究所の調査による。
2 色をつけたセルは、各罪種群ごとの上位2項目を示す。

図89 犯罪群別財産犯前科歴数



注 法務総合研究所の調査による。

図90 犯罪群別財産犯前科歴数 平均値



注 法務総合研究所の調査による。

b 10年内財産犯前科歴数

10年内財産犯前科歴数の分布については、表88・89、図91・92のとおりであり、強わい・強姦、強盗群において前科歴保有者の割合が40％を超えているなど比較的高い傾向がある（強わい・強姦群の平均値が著しく高いのは、賽銭泥棒を各地でくり返した窃盗前科歴28回の者が含まれているためであり、これを除くと、強わい・強姦群で0.7、全体で0.6となる。）。

表88 犯罪群別10年内財産犯前科歴数

	総数	なし	1回	2回	3－5回	6－10回	平均
総数	163	114	25	12	11	1	0.7
殺人	38	30	4	2	2	0	0.4
傷害・致死	50	36	8	3	3	0	0.5
放火	34	25	4	4	1	0	0.4
強わい・強姦	19	10	6	0	2	1	2.2
強盗	22	13	3	3	3	0	1.0

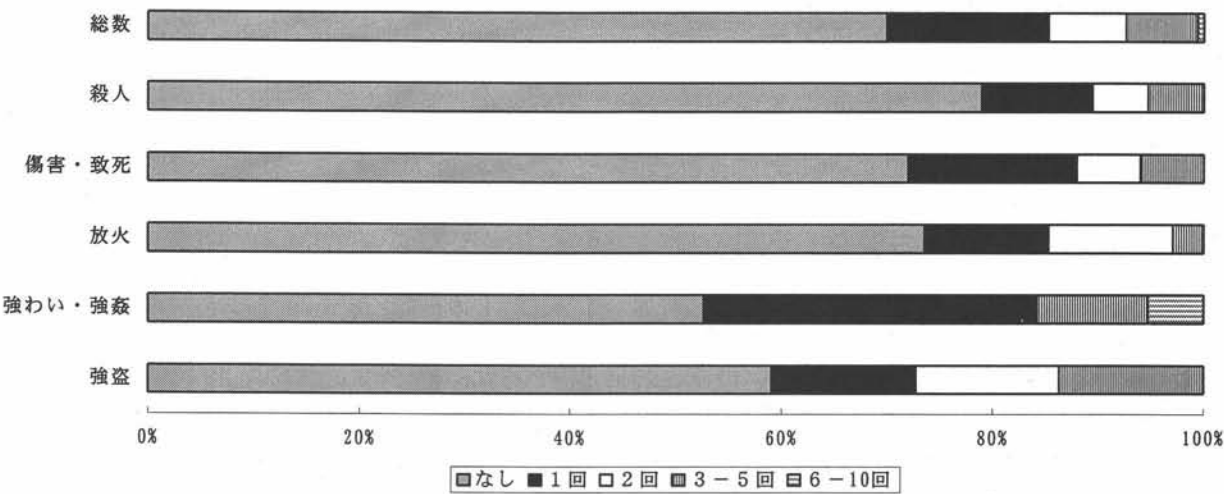
注 法務総合研究所の調査による。

表89 犯罪群別10年内財産犯前科歴数（累積百分率）

	総数	1回以上	2回以上	3回以上	6回以上
総数	100.0	30.1	14.7	7.4	0.6
殺人	100.0	21.1	10.5	5.3	—
傷害・致死	100.0	28.0	12.0	6.0	—
放火	100.0	26.5	14.7	2.9	—
強わい・強姦	100.0	47.4	15.8	15.8	5.3
強盗	100.0	40.9	27.3	13.6	—

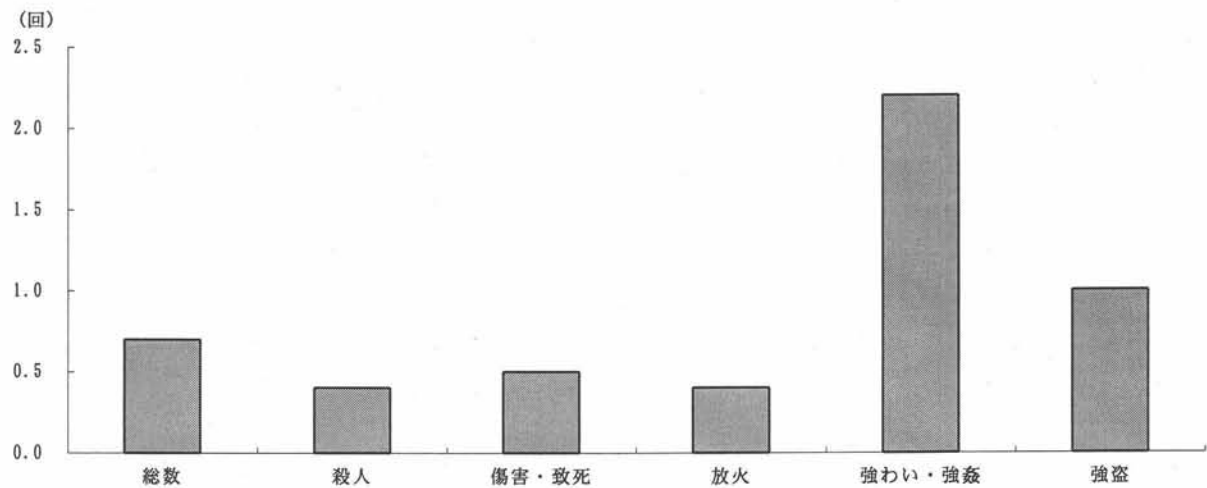
注 1 法務総合研究所の調査による。
2 色をつけたセルは、各罪種群ごとの上位2項目を示す。

図91 犯罪群別・10年内財産犯前科歴数別構成比



注 法務総合研究所の調査による。

図92 犯罪群別10年内財産犯罪前科歴数



注 法務総合研究所の調査による。

(ク) 覚せい剤取締法違反前科歴数

覚せい剤取締法違反前科歴数の分布は、表90・91、図93、平均値は図94のとおりである。

全般的に同前科歴を有する者の率が低いが、その中では、殺人、傷害・致死群が他の群に比して率が高い。

表90 犯罪群別覚せい剤取締法違反前科歴数

	総数	なし	1回	2回	3－5回	6－10回	平均
総数	163	134	14	4	8	3	0.4
殺人	38	28	5	3	2	—	0.5
傷害・致死	50	37	4	1	5	3	0.9
放火	34	30	4	—	—	—	0.1
強わい・強姦	19	18	1	—	—	—	0.1
強盗	22	21	—	—	1	—	0.2

注 法務総合研究所の調査による。

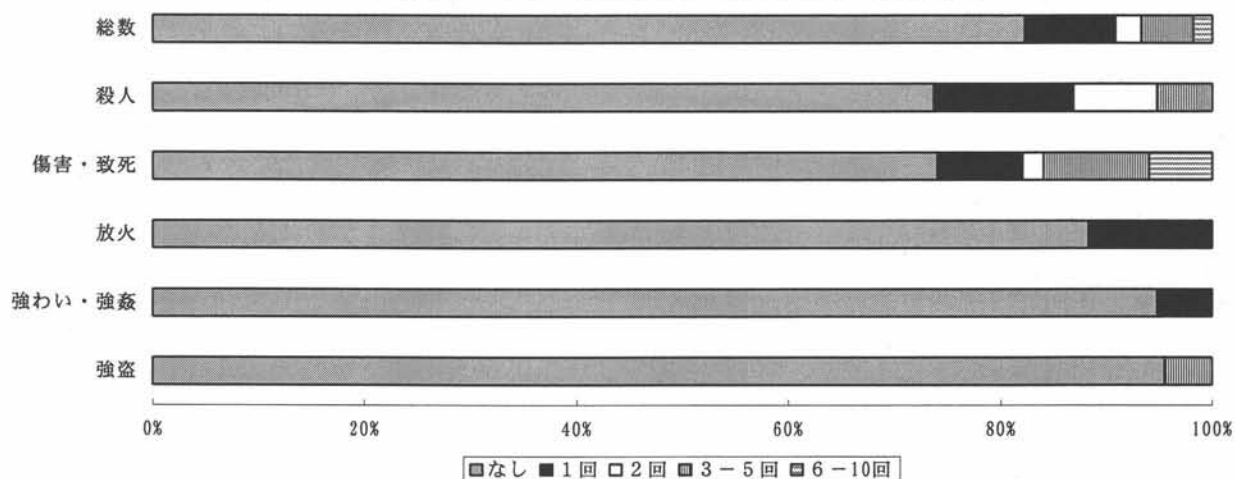
表91 犯罪群別覚せい剤取締法違反前科歴数（累積百分率）

	総数	1回以上	2回以上	3回以上	6回以上
総数	100.0	17.8	9.2	6.7	1.8
殺人	100.0	26.3	13.2	5.3	—
傷害・致死	100.0	26.0	18.0	16.0	6.0
放火	100.0	11.8	—	—	—
強わい・強姦	100.0	5.3	—	—	—
強盗	100.0	4.5	4.5	4.5	—

注 1 法務総合研究所の調査による。

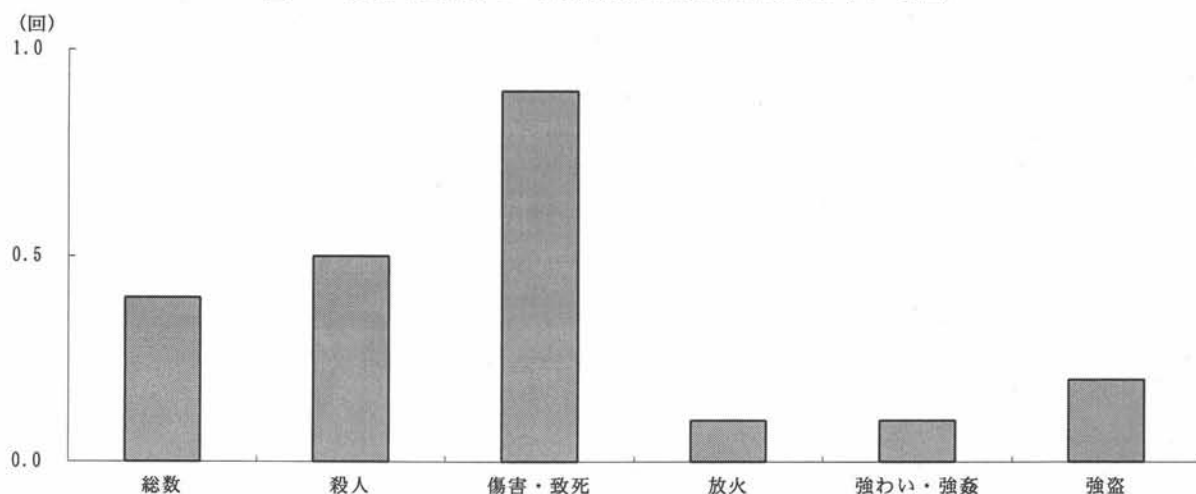
2 色をつけたセルは、各罪種群ごとの上位2項目を示す。

図93 犯罪群別・覚せい剤取締法違反前科歴数別構成比



注 法務総合研究所の調査による。

図94 犯罪群別覚せい剤取締法違反前科歴数（平均値）



注 法務総合研究所の調査による。

ウ 発病前前科歴数

精神障害の発病前^(注56)の前科歴（非行歴を含む）は、発病前から犯罪傾向があったか否かを見極める点で重要と思われる。発病前の重大前科歴が多い者は、元々の犯罪傾向があってこれが重大犯罪の惹起にも影響を与えている可能性があり、また、逆に、発病前の重大前科歴が全くない者については、もともと犯罪傾向が認められないにもかかわらず、もっぱら精神障害の影響により重大犯罪を惹起した可能性があるものと考えられる^(注57)。

(注56) 「発病前」とは、精神障害があることが明確になる前のことをいうこととした。発病時期が全く不明である場合や、医師の判断でも1年以上の幅がある場合には、「発病時期不明」とみなした。精神遅滞等で当初より精神障害があることが明確である場合には、発病時期は、分類の便宜上、0歳時点とみなした。発病時期が明確でありながら、前科歴との前後関係が不明確な場合は、発病前の前科歴とは認定できないということで発病前前科歴数には算入しなかった。従って、以下でとりあげた数値は、いずれも、研究対象者中、発病前の前科歴と明確に算定できる数ということになる。

(注57) 本件の対象者は、精神障害の影響により責任無能力ないし限定責任能力と認定されたものに限定しているので、是非弁別能力ないしはこれに従って行動する能力が欠けているか衰えていることが再犯への直接的原因の一つとなっているのは当然であるが、発病前の前科歴の存在を裏付ける犯罪傾向の有無が、それと並んで再犯へと導く重要な要因の1つである可能性がある。

(ア) 発病前重大前科歴数

発病前重大前科歴数の分布は表92・93、図95・96のとおりである。

傷害・致死，放火群で発病前重大前科歴数が多い傾向があり，両群とも発病前重大前科歴数を有する者の率は50%を超えている。

表92 犯罪群別発病前重大前科歴数

	総数	なし	1回	2回	3－5回	6－10回	平均
総数	133	74	34	9	12	4	0.8
殺人	29	19	5	2	2	1	0.8
傷害・致死	40	17	13	4	5	1	1.1
放火	28	13	8	2	3	2	1.3
強わい・強姦	15	10	3	1	1	—	0.6
強盗	21	15	5	—	1	—	0.4

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 不明を除く。

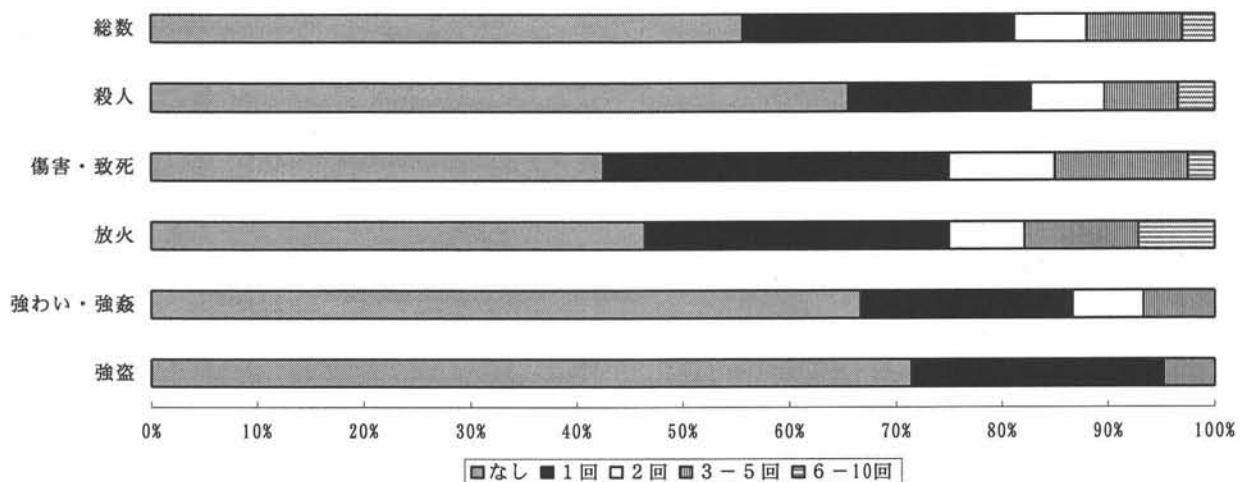
表93 犯罪群別発病前重大前科歴数（累積百分率）

	総数	1回以上	2回以上	3回以上	6回以上
総数	100.0	44.4	18.8	12.0	3.0
殺人	100.0	34.5	17.2	10.3	3.4
傷害・致死	100.0	57.5	25.0	15.0	2.5
放火	100.0	53.6	25.0	17.9	7.1
強わい・強姦	100.0	33.3	13.3	6.7	—
強盗	100.0	28.6	4.8	4.8	—

注 1 法務総合研究所の調査による。

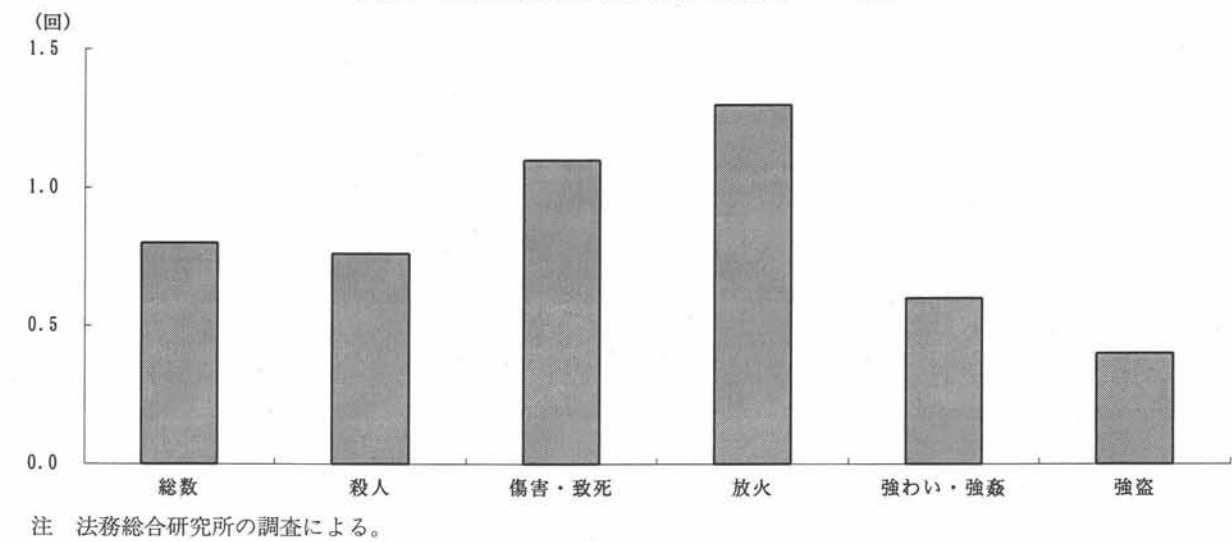
2 色をつけたセルは，各罪種群ごとの上位2項目を示す。

図95 犯罪群別・発病前重大前科歴数別構成比



注 法務総合研究所の調査による。

図96 犯罪群別発病重大前科歴数 平均値



(イ) 発病前殺人前科歴数

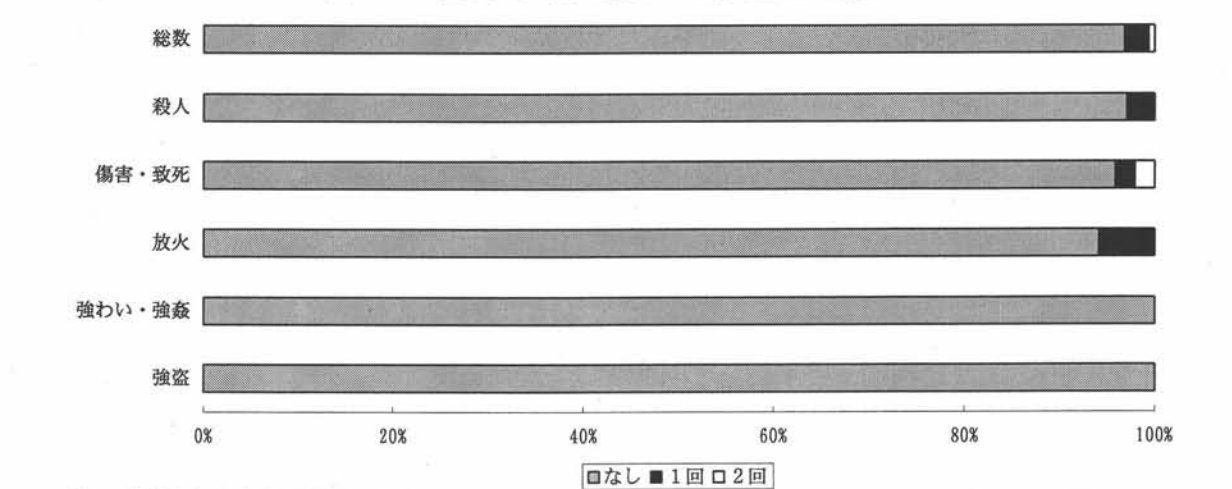
発病前の殺人前科歴数については、表94、図97のとおりである。発病前から殺人の前科歴のある者は殺人群も含めて極めて少数であることがわかる。

表94 犯罪群別発病前殺人前科歴数

	総数	なし	1回	2回
総数	157	152	4	1
殺人	34	33	1	—
傷害・致死	48	46	1	1
放火	34	32	2	—
強わい・強姦	19	19	—	—
強盗	22	22	—	—

注 1 法務総合研究所の調査による。
2 不明は除く。

図97 犯罪群別・発病前殺人前科歴数別構成比



(ウ) 発病前 傷害・致死前科歴数

発病前傷害・致死前科歴数の分布は表95・96、図98、平均値は図99のとおりである。傷害・致死群で傷害・致死前科歴を有する者の割合が高く、50%を超え、次いで放火、殺人群での割合が高い。

傷害・致死群の中には、発病前から傷害・致死等の犯罪に対する親和性のある者の割合が他の群より多いものと思われる。また、放火群は、傷害・致死等の殺傷犯とは罪質を異にするが、発病前の前科歴数をみる限り、殺人群と同等程度に殺傷犯と親和性のある者の割合が高いように思われる。

表95 犯罪群別発病前傷害・致死前科歴数

	総数	なし	1回	2回	3－5回	6－10回	平均
総数	140	92	31	4	12	1	0.7
殺人	29	20	6	－	3	－	0.6
傷害・致死	40	18	14	3	5	－	0.9
放火	31	21	6	1	2	1	0.7
強わい・強姦	19	17	1	－	1	－	0.2
強盗	21	16	4	－	1	－	0.3

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 不明を除く。

表96 犯罪群別発病前傷害・致死前科歴数（累積百分率）

	総数	1回以上	2回以上	3回以上	6回以上
総数	100.0	34.3	12.1	9.3	0.7
殺人	100.0	31.0	10.3	10.3	－
傷害・致死	100.0	55.0	20.0	12.5	－
放火	100.0	32.3	12.9	9.7	3.2
強わい・強姦	100.0	10.5	5.3	5.3	－
強盗	100.0	23.8	4.8	4.8	－

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 色をつけたセルは、各罪種群ごとの上位2項目を示す。

図98 犯罪群別・発病前傷害・致死前科歴数別構成比

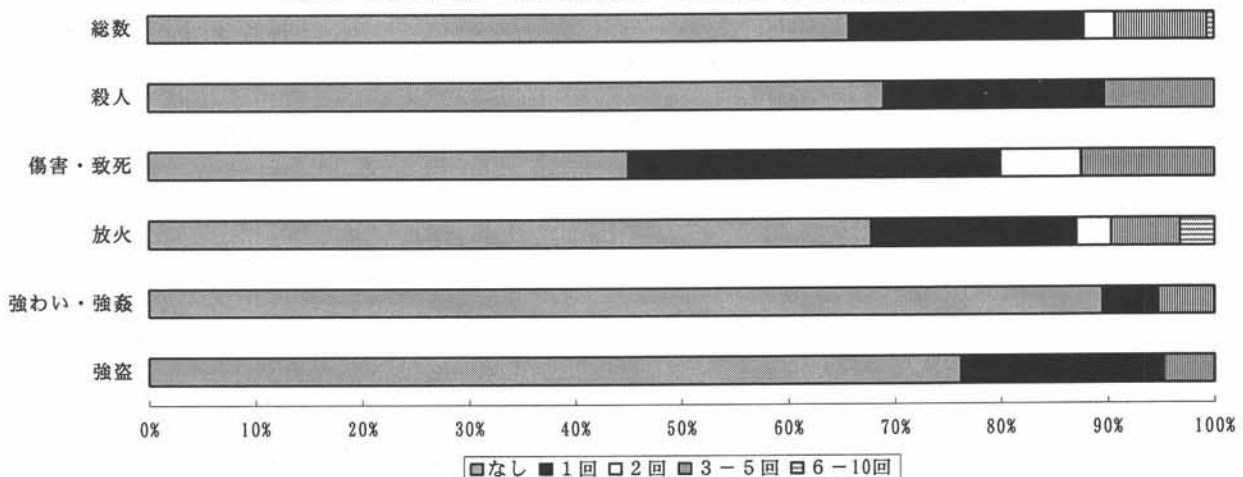
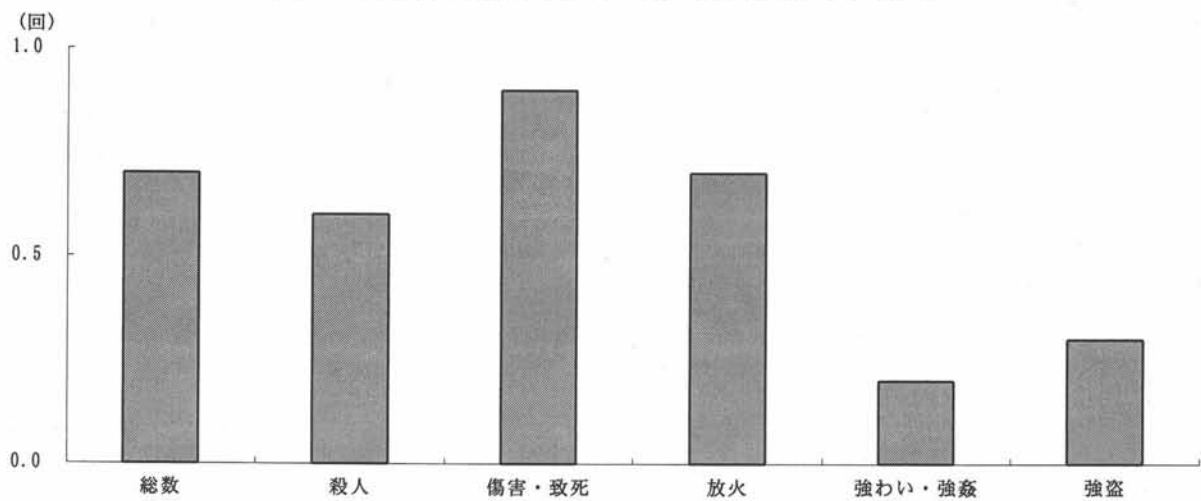


図99 犯罪群別発病前傷害・致死前科歴数（平均値）



注 法務総合研究所の調査による。

(㊦) 発病前放火前科歴数

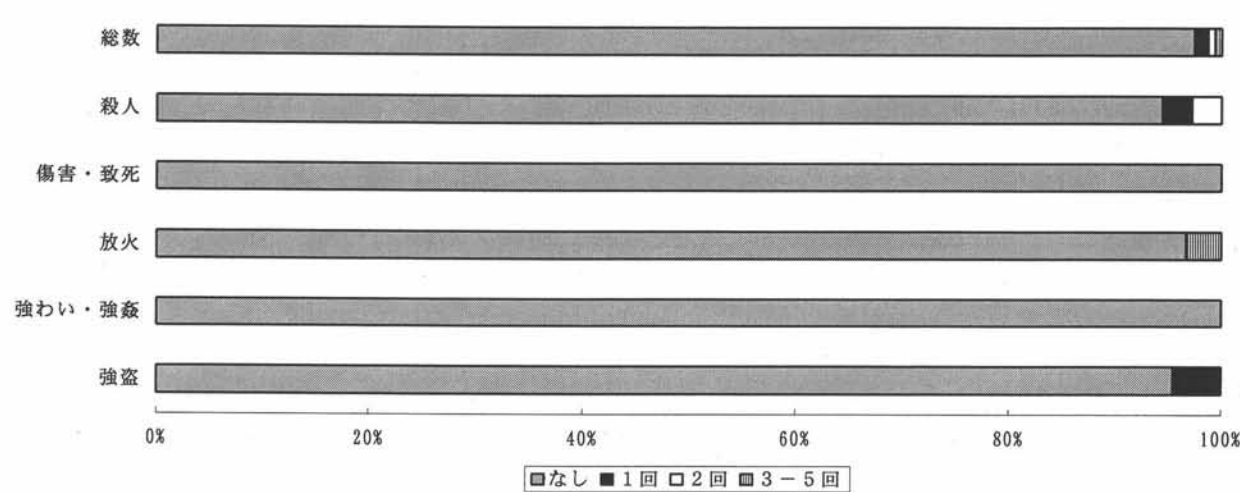
発病前放火前科歴数は、表97、図100のとおりであり、発病前に放火前科歴のある者は極めて少ない。

表97 犯罪群別発病前放火前科歴数

	総数	なし	1回	2回	3－5回
総数	155	151	2	1	1
殺人	36	34	1	1	—
傷害・致死	48	48	—	—	—
放火	30	29	—	—	1
強わい・強姦	19	19	—	—	—
強盗	22	21	1	—	—

注 1 法務総合研究所の調査による。
2 不明を除く。

図100 犯罪群別・発病前放火前科歴数別構成比



注 法務総合研究所の調査による。

(オ) 発病前強わい・強姦前科歴数

発病前前科歴数の分布は、表98、図101のとおりであり、発病前の強わい・強姦前科歴のある者の割合は、強わい・強姦群で20%と突出しているものの、全般的には極めて低い(注58)。

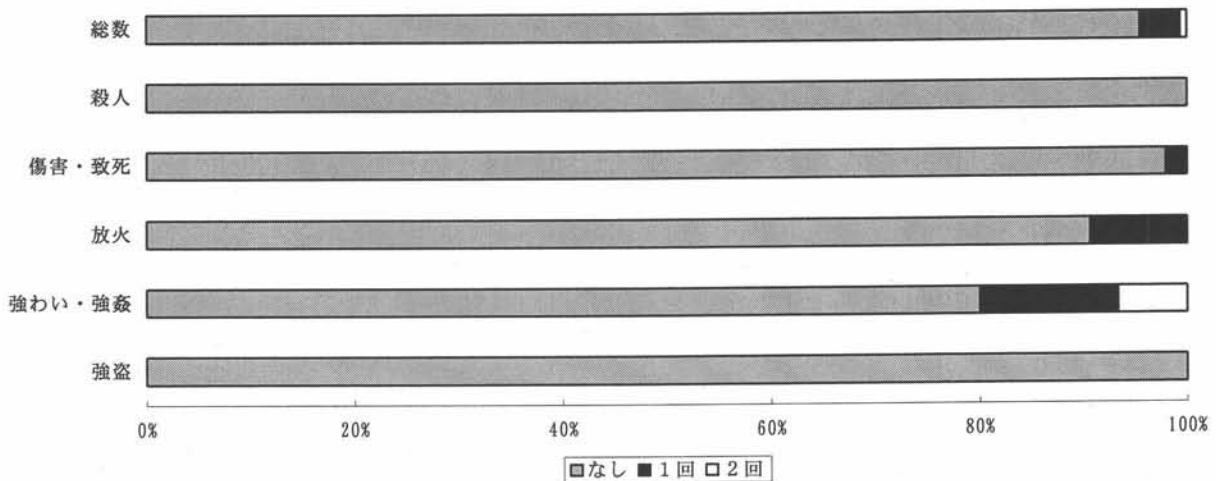
表98 犯罪群別発病前強わい・強姦前科歴数

	総数	なし	1回	2回	平均
総数	154	147	6	1	0.1
殺人	37	37	—	—	—
傷害・致死	48	47	1	—	0.0
放火	32	29	3	—	0.1
強わい・強姦	15	12	2	1	0.3
強盗	22	22	—	—	—

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 不明を除く。

図101 犯罪群別・発病前前科歴数別構成比



注 法務総合研究所の調査による。

(カ) 発病前強盗前科歴数

発病前強盗前科歴数の分布は表99、図102のとおりであり、どの群でも発病前の強盗前科歴数は極めて少ない。

(注58) ちなみに、表98について χ^2 検定を行ったところ、強わい・強姦群の0回が有意に少なく、1回、2回が有意に多いことが判明した(検定結果の詳細については、巻末検定表14のとおり)。

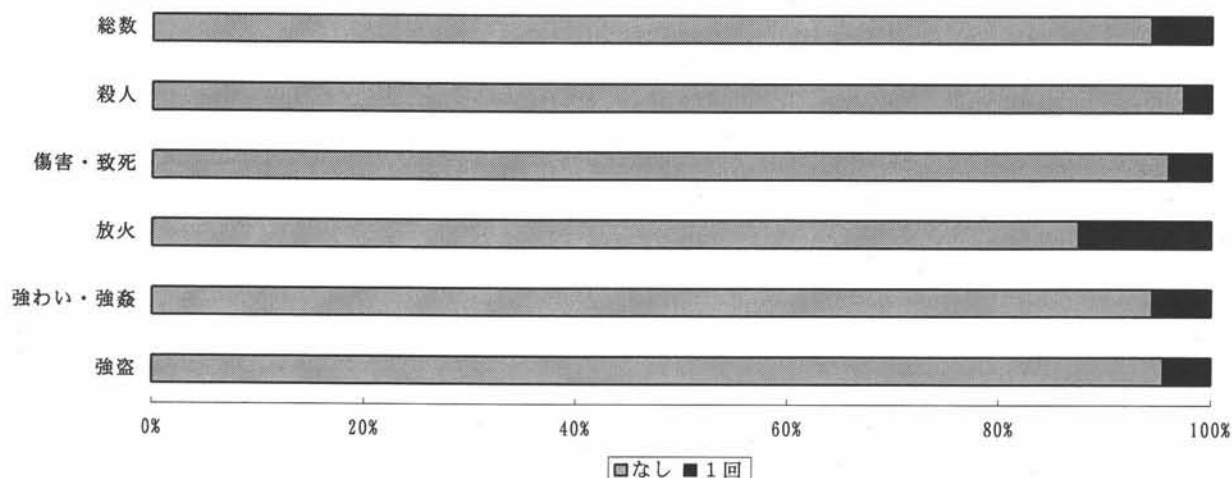
表99 犯罪群別発病前強盗前科歴数

	総数	なし	1回
総 数	158	149	9
殺 人	37	36	1
傷 害・致死	49	47	2
放 火	32	28	4
強わい・強姦	18	17	1
強 盗	22	21	1

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 不明を除く。

図102 犯罪群別発病前強盗前科歴数



注 法務総合研究所の調査による。

(2) 問題行動歴

前科前歴非行歴の形で顕在化する前の段階でも、犯罪へつながる異常な行動が現れる場合があるものと考えられる。

飲酒の影響による暴力行為や家庭内での暴力行為が典型であるが、飲酒の影響の場合を除外したものを「問題行動」、飲酒時の行動を「問題飲酒癖」と定義付けて、その態様と発生時期等について各群別に分析を試みた。

ア 問題行動歴

(ア) 問題行動形態

飲酒時の問題行動以外の「問題行動」の形態を、対象記録から抽出し（複数選択可であり、問題行動合計と対象者数合計とは一致しない。）、分類した結果を示したものが、表100、図103である^(注59)。

(注59) 「対人関係離脱」とは、「引きこもり」「家出」「放浪」を、「対人暴力」とは「他人（家族を含む）の身体への暴力行為（セクハラ行為も含む）」を、「暴言」とは「脅迫」「侮辱」のほか、「罵詈雑言」「罵倒」等犯罪にはならないもののいわゆる「言葉の暴力」を含むものを、「自殺企図」は自殺を試みるあるいは試みようとした行為を、「自傷行為」は自殺以外の自己の身体を傷つける行為を、「対物暴力」は、「自己又は他人の物に対する損壊行為」を、「夜間徘徊等異常行動」は夜間徘徊等、「他人に危害を加えてはいないが、危険を及ぼす可能性を感じさせる異常な行為」を、「覚せい剤使用」「有機溶剤使用」「大麻使用」「他薬物使用（犯罪を構成するか否かを問わないが濫